

体で感じる農業・農村！

～体験学習や教育の場としての活用事例集～



【表紙の写真】

- ・ 田植え・稲刈り体験教室（埼玉県秩父市）

【次ページの写真】

- ・ 果樹の収穫体験（和歌山県紀の川市）

【裏表紙の写真】

- ・ 生き物調査（北海道美幌町）

農業は私たち国民に 大きな恵みをもたらします！

農業・農村は、私たちが生きていくのに必要な食料を供給する役割だけでなく、水田や畑での生産活動を通じて、国土の保全、水源のかん養、自然環境の保全、良好な景観の形成などのさまざまな役割（多面的機能）を有しています。

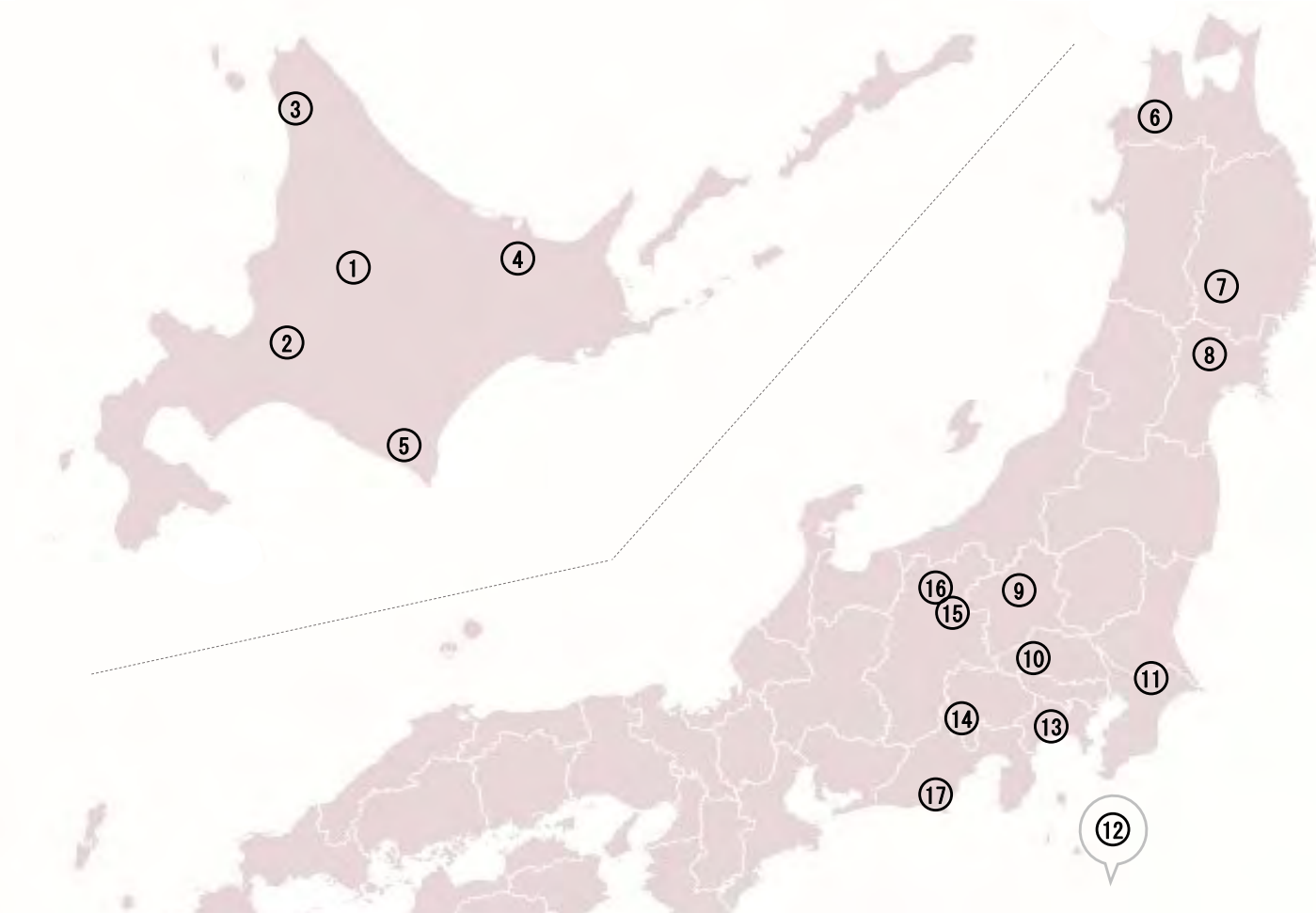
その役割の一つに、体験学習や教育の場としての役割があります。農村で、動植物や豊かな自然に触れることで、生命の大切さや食料の恵みに感謝する心が育まれます。

この冊子では、各地で取り組まれている体験学習や教育の場としてのイベントを紹介しています。都市に住む方々にも、このような農村のイベントにご参加頂き、農業・農村の恵みを肌で感じとってもらえれば幸いです。



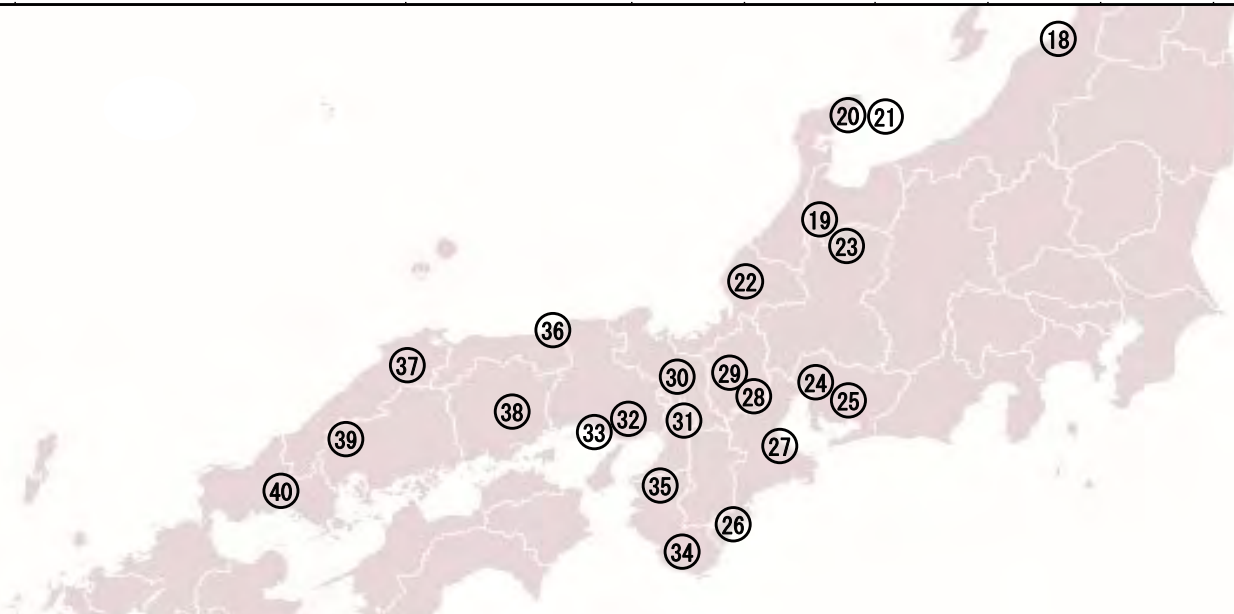
も く じ

頁	タイトル	都道府県／市町村	農作業 体験	グリーン ツーリズム	オーナー 制度	生物観察 環境学習	伝統行事 イベント	料理教室	工芸 芸能
1	子ども農業体験塾	北海道／旭川市	○						
2	ハサンベツ里山づくり	北海道／栗山町	○			○			
3	サロベツ・エコモーDay	北海道／天塩郡豊富町		○					
4	日本最東端の田んぼの学校	北海道／美幌町	○	○		○		○	
5	日高王国（農林漁業体験）	北海道／浦河町、様似町、えりも町	○	○					
6	トンボたちの楽園 弘前だんぶり池	青森県／弘前市				○			
7	岩手大学のため池保全サークル（like-ic）による体験イベント 田んぼの学校	岩手県／奥州市	○			○			
8	おおさき生きものクラブ	宮城県／大崎市				○			
9	収穫体験ツアー	群馬県／渋川市	○						
10	田植え・稲刈り体験教室	埼玉県／秩父市	○						
11	親子体験農業教室	千葉県／成田市	○						
12	八丈島たんぼまつり	東京都／八丈町	○						○
13	里都まち♡なかい農作物収穫体験	神奈川県／中井町	○						
14	自然と共生する農業体験	山梨県／早川町	○	○		○			
15	稲倉の棚田「田植え・稲刈り体験」「ししおどし」	長野県／上田市	○						○
16	姨捨の棚田「田植え・稲刈り体験」	長野県／千曲市	○						
17	千榎棚田で米づくり体験	静岡県／菊川市			○	○			○



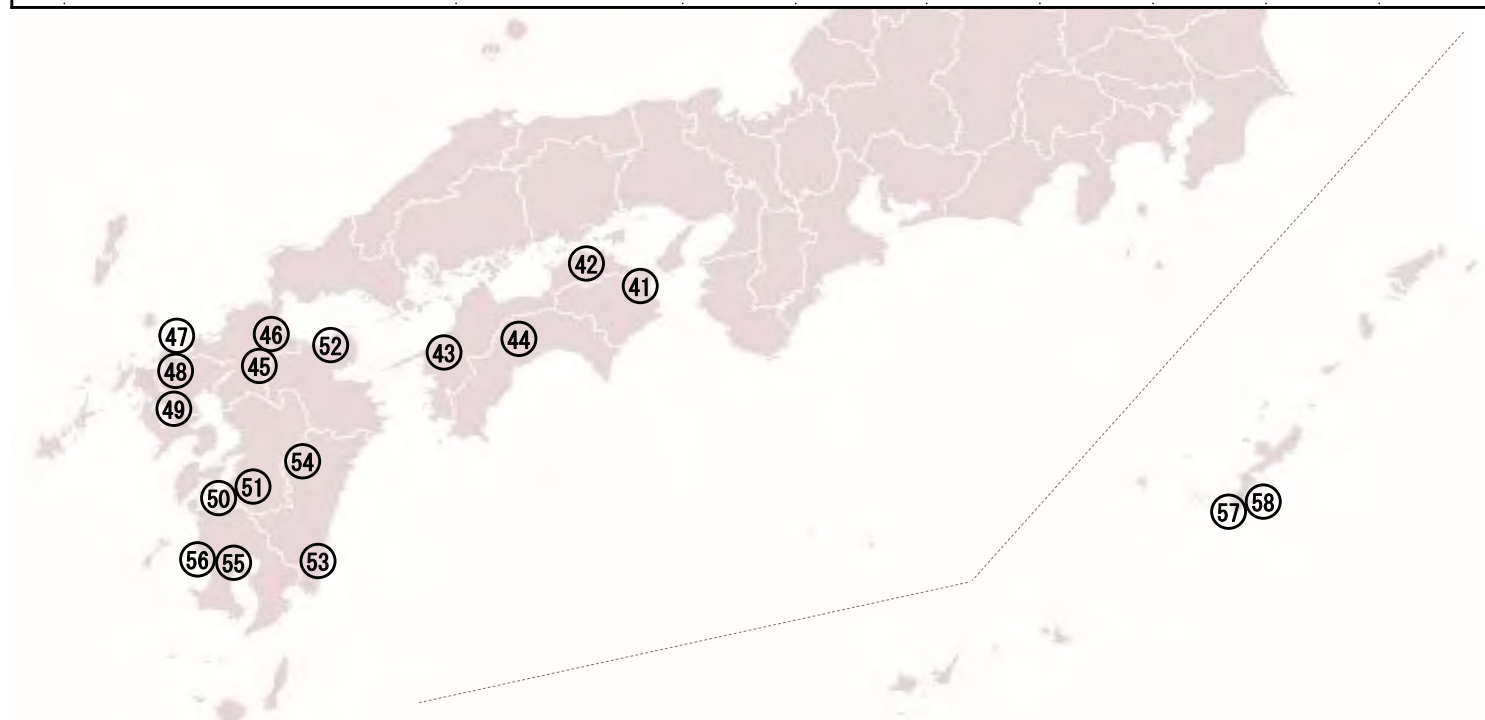
も く じ

頁	タイトル	都道府県／市町村	農作業 体験	グリーン ツーリズム	オーナー 制度	生物観察 環境学習	伝統行事 イベント	料理教室	工芸 芸能
18	上三光集落の農作業体験等	新潟県／新発田市	○					○	
19	利賀村の山村体験等	富山県／南砺市	○	○					
20	カエルもトンボもみんな村民 自然体験村「ケロンの小さな村」	石川県／能登町	○			○		○	
21	農家民宿群「春蘭の里」	石川県／能登町	○	○					○
22	ロハス越前のグリーン・ツーリズム	福井県／越前市	○	○	○	○			○
23	種蔵myみょうがプロジェクト	岐阜県／飛騨市	○		○				
24	田んぼアート会場で稲作体験	愛知県／名古屋市港区	○				○		
25	水田魚道を活かした環境教育	愛知県／安城市				○			
26	千枚田オーナーになり農業体験	三重県／熊野市	○		○		○		
27	大学生と連携した農業体験	三重県／津市	○				○		
28	近江日野田舎体験	滋賀県／日野町		○					
29	ゆりかご水田の田植え・収穫体験	滋賀県／野洲市	○			○			
30	京都丹波「食と森の交流の都」プロ ジェクト	京都府／亀岡市、南 丹市、京丹波町	○	○					○
31	たかつき子ども自然体験学校	大阪府／高槻市	○			○			
32	親子農業体験教室	兵庫県／神戸市	○					○	
33	自然体験学習	兵庫県／神戸市	○			○			
34	上秋津小学校農業体験学習	和歌山県／田辺市	○	○					
35	JA紀の里体験農業	和歌山県／紀の川市	○						
36	横尾棚田オーナー制度	鳥取県／岩美町	○		○		○		
37	『たんぼの学校』in 山王寺棚田	島根県／雲南市	○		○		○		
38	農業体験＋人材育成研修	岡山県／久米南町	○	○					
39	井仁の棚田での田植え／稲刈り	広島県／安芸太田町	○						
40	阿東ふるさと交流農園	山口県／山口市	○						



も く じ

頁	タイトル	都道府県／市町村	農作業 体験	グリーン ツーリズム	オーナー 制度	生物観察 環境学習	伝統行事 イベント	料理教室	工芸 芸能
41	芋堀り体験農園 里むすめ畑	徳島県／鳴門市	○						
42	香川の農業体験 「さぬき農園ぐらし」	香川県／各地	○					○	
43	檜谷棚田オーナー制度	愛媛県／大洲市	○		○				
44	いの町を存分に味わう体験メニュー	高知県いの町	○						
45	棚田オーナー制度による田植え・収穫祭	福岡県／うきは市	○		○				
46	棚田での田植え、稲刈り体験	福岡県／朝倉郡東峰村	○				○		
47	葦野の棚田保全活動	佐賀県／唐津市		○					
48	田植え、収穫・焼き物体験	佐賀県伊万里市	○						
49	鬼木棚田まつり	長崎県／東彼杵郡波佐見町		○			○		
50	田園計画（棚田保全）	熊本県／水俣市	○				○		
51	田舎の体験交流	熊本県／球磨郡球磨村	○	○			○	○	
52	田染荘御田植祭	大分県／豊後高田市	○		○		○		
53	オーナー制度による田植え、収穫体験	宮崎県／日南市	○		○		○		○
54	世界農業遺産体験プログラム	宮崎県／高千穂町、椎葉村、五ヶ瀬町、日之影町、諸塚村	○	○				○	○
55	農業体験in八重の棚田	鹿児島県／鹿児島市	○		○		○		
56	尾木場棚田散策&山菜狩り	鹿児島県／日置市	○	○					
57	地産地消・食育の日講習会	沖縄県／糸満市						○	
58	シェア農園での体験イベント	沖縄県／西原町	○					○	



子ども農業体験塾

・北海道／旭川市
・開催時期：5月～11月

「食育と農業理解！」 「ふるさとづくり！」 「プチ冒険！」

体験学習等のイベント内容

- ・旭川市内の小学生を対象に、5月から11月まで、月に1回程度、水稻・園芸・酪農等、各種の農業体験を実施し、「旭川の農業」や「食」、「命の大切さ」について考える学習機会を提供しています。
- ・地域の教育大学の学生がボランティアスタッフとして参加し、小学生・大学生・農業者の異世代間交流の場にもなっています。

子ども農業体験塾年間プログラム

実施時期	実施内容
5月上旬	入塾式
5月下旬	田植え体験
8月	ハーブ収穫体験
9月上旬	酪農体験
9月下旬	稲刈り体験
10月	果樹収穫体験
11月	収穫祭・修了式



取組主体の紹介

市民の農業・農村・食糧への関心と理解を深めることを目的に、旭川市が実施している「市民農業ふれあい事業」の取組の一つです。有志の農業者と旭川市が運営委員になり、H12年に開塾。H18年には地域の教育大学が運営委員に加わっています。開塾以来プログラムを改良しながら取組を継続しています。

イベントに参加するには

旭川市内の小学4～6年生が対象。
3～4月に市の広報誌やHPに掲載し募集しています。

・取組主体等：子ども農業体験塾運営委員会

・問合せ先：0166-25-7417（旭川市役所 農政部農政課）



里山の豊かな自然から人と自然が共生するまちづくりを学ぶ

体験学習等のイベント内容

- ・里山として人と自然とが共生するためには、自然にすべてを任せるのではなく、人の手を加え、利用しやすい環境を整える必要があります。
- ・5月から11月までの毎月第2日曜日を「ハサンベツ里山の日」とし、一般参加を可能とした里山の再生に取り組んでいます。
- ・春の里山開きに始まり、苗畑づくり、野草や水生植物の移植、田畑の草取り、農作物の収穫、ほ場の片付け、冬囲いなどの他、ホタル鑑賞会や冬期には雪下ろしや炭焼きなどの体験活動も実施しています。
- ・ハサンベツの里山があることで、子どもたちは自然の中で、実際に五感を使った色々な体験を通して学びを深めています。



取組主体の紹介

栗山町ハサンベツ里山計画実行委員会は平成13年度から約24haの離農跡地とその周辺約100haの林地で「人と自然と農業が共生する里山」を目指し、ホタル・トンボ水路の整備、子どもたちが遊べる小川や体験田んぼの造成、ハサンベツ川の環境再生、湿性植物繁殖地の造成と移植、雑木林の復元などの活動を展開してきました。

その活動は20周年を迎え、拠点施設として新たに生まれ変わった「里山のめぐみ交流館【納屋】」を中心にこれからも里山の再生に取り組んでいきます。

イベントに参加するには

事務局にお問い合わせください。

- ・取組主体等：栗山町ハサンベツ里山計画実行委員会
- ・問合せ先：0123-72-3000（実行委員長 高橋 慎）
0123-72-1117
（栗山町教育委員会社会教育課内）



サロベツの湿原と農業を満喫する1日

体験学習等のイベント内容

・北海道の北部に位置するサロベツ湿原では、地域の多様な主体が協力して湿原と農業の共生を目指す「自然再生事業」が行われています。

・この取組をより多くの人に知っていただくため、毎年秋に「サロベツ・エコモーDay」を開催し、パネル展やクイズラリー、牧草ロール展示、はしご車による湿原展望、地元小学生による自然散策路ガイドなど、当日は様々なイベントを実施しています。

・8回目の開催となった2019年は、地域の内外から470名が参加し、湿原の保全と酪農業の振興を両立させる取組への理解が深められています。



取組主体の紹介

取組主体である「サロベツ・エコモーDay実行委員会」は、サロベツの湿原と農地を保全するため個人・団体による有志で組織された「エコモー☆サポーター」が中心となっています。

エコモーDayの開催には、豊富町、豊富町観光協会、JA北宗谷、豊富牛乳公社、豊富高校など、地域の多くの方々の協力をいただいています。

イベントに参加するには

開催日時は、ホームページ等で告知します。

・取組主体：サロベツ・エコモーDay実行委員会

・問合せ先（TEL等）：サロベツ湿原センター

TEL:0162-82-3232

・参考URL：<http://sarobetsu.or.jp/ecomoo/>



日本最東端の田んぼの学校

・北海道／美幌町
・開催時期：田植え・稲刈り・
収穫祭及び観察会の4回

親子一緒に農業農村を体験して、多面的機能を学ぶ

体験学習等のイベント内容

・地元の親子を対象に土地改良区、農協、博物館、役場、農業者など多くの機関と個人が協力して農業体験、食の知識の習得、生物多様性の学習や農業施設見学を行い、農業農村の役割を学んでいます。

・「田んぼの学校」は田植え、稲刈り、餅つきまで一連の稲作を体験し、さらに田んぼや用水路等の農業水利施設で博物館の指導の下で生き物調査を行っています。また、地元農産物を使いうどんやナン、バター等を作り、その自ら作った料理を食べる体験も行っています。

・この活動には、地元を中心に幼稚園から小学生まで60人を超える親子が参加しています（コロナ禍前）。かつて子供として参加していたが、成長して主催者の一人として活動を支える立場で参加する者も出ており、地域に根ざした息の長い活動になっています。



取組主体の紹介

取組主体の網走川土地改良区は、美幌町・大空町の面積2,422haの農地に関わる頭首工4か所、幹線4条45.6km、支線69条47.0kmを維持管理しています。また、他にも農業水利施設を含む農業農村の多面的機能を広く知ってもらうために「田んぼの学校」を関係機関等と協力して行っています。

イベントに参加するには

「田んぼの学校」の開催は、地元の広報誌や新聞に掲載しお知らせと募集をしています。

- ・取組主体等：網走川土地改良区
- ・問合せ先（TEL等）：0152-73-2037



日高王国（農林漁業体験）

・北海道／浦河町、様似町、えりも町
・開催時期：通年

見る、遊ぶ、体験する 北海道の新しい教育旅行

体験学習等のイベント内容

・北海道 日高の地で、現代の都会生活ではなかなか体験できない、美しく厳しい自然、生産現場や農林漁家での人とのふれあいなど、教室では学べない人間関係のあり方や社会生活を体験することで、生産現場への理解と食の大切さを学んでいます。

・体験内容は、1グループ3～4名の生徒が、農林漁家に滞在しながら野菜の種植え、収穫、牛馬の世話などの農作業や昆布干しなどを体験し、雄大な自然の中で地域の人たちとふれあうプログラムです。

・平成23年度の開始以来から令和元年度まで、高校生延べ3,156人を受入し、都市部の生徒と地域住民に交流が生まれ、一過性ではなく継続的なつながりや、参加した生徒が道内で就農した事例もあります。



取組主体の紹介

取組主体である「日高王国推進協議会」を構成する浦河町・様似町・えりも町は馬産地として有名ですが、野菜の生産や乳用牛や肉用牛などの畜産、林業、漁業も盛んです。

冬期でも積雪量が少なく、夏が涼しいのでハウス栽培に適した地域で、特産品であるイチゴに加え、花きやアスパラガス、トマトなどの栽培が行われています。

また加工品の製造など、農業経営の多角化に取り組んでいます。

イベントに参加するには

高校生以上の修学旅行等を対象に参加(有料)を募集しています。

・取組主体等：日高王国推進協議会（〒057-8511 北海道
浦河郡浦河町築地1丁目3 番 1 号 浦河町役場内）

・問合せ先（TEL&FAX）：0146-22-2511



希少種を含む数十種類のトンボが飛び交うトンボたちの楽園

体験学習等のイベント内容

・「弘前だんぶり池」は、市街地から5kmほど離れた里山地域にあり、サワガニやカジカなどが生息する赤沢・大畑沢という二本の清流に囲まれた休耕田を手作業で再整備して作られました。

・10枚の田んぼは、それぞれ水深や形態を変化させた池とし、生物多様性の確保に努め、その結果、だんぶり池では、トンボのほかにも、メダカやトウホクサンショウウオ、ゲンジボタルやヘイケボタルなどが見られるほか、ドジョウやカエル類もたくさん生息するため、カワセミ等の鳥類も見ることができるなど、多様な生きものが生息する空間となっています。

・ここでの学びは、教科書だけの学びと違い、やがて大人になっても忘れられない体験となって残ることと思います。



取組主体の紹介

2002年2月に市民・事業者主体の自立的な任意組織「ひろさき環境パートナーシップ21（HEP21）」が設立され、同年3月弘前市との間で「環境パートナーシップ協定」を締結し、以後、市民・事業者・行政のパートナーシップにより、「自然環境の復元」を具体化するため、「弘前だんぶり池」（だんぶり：津軽弁でトンボのこと）づくりを始めました。貴重なトンボ等が残っていた休耕田を弘前市が買い上げ、協定を締結しているHEP21の市民・事業者が中心となって、ボランティアで池のデザインや整備活動等を行い、2003年10月に開所式を開催しました。

イベントに参加するには

所在地	青森県弘前市大字坂元字赤沢1番地
申込方法	「弘前だんぶり池カレンダー」を毎年発行し、だんぶり池における作業活動日を周知していますので、その日であればいつでもどなたでも参加可能です。カレンダーについては、弘前市のホームページをご覧ください。HEP21事務局へお問い合わせ願います。
開催時期	4月～11月上旬
弘前市 HP :	
	http://www.city.hirosaki.aomori.jp/jouhou/keikaku/partner21/partner21.html



田んぼの学校

・岩手県／奥州市
・開催時期：春～秋（各種農作業時期）

岩手大学の学生と地元の方々が、趣向を凝らして自然環境の大切さをお伝えします！

体験学習等のイベント内容

自然環境の大切さや維持管理の重要性を農業体験を通じて理解してもらうために活動しているのが『田んぼの学校』です。

豊かな自然景観と生物多様性が残る内田ため池を中心に、単体ではなく、年間を通じて各種農作業のイベントや環境保全学習会を、地域住民の参加・協力をいただきながら行うことにより、自然環境の大切さのみならず、普段当たり前に使っている機械の有難みなどを知ることができます。

年間のイベントスケジュール（例）

田ぶち	4月17日（水曜日）
代かき	5月12日（日曜日）
田植え	6月2日（日曜日）
草刈り（1）	7月7日（日曜日）
環境保全学習会	8月6日（火曜日）
草刈り（2）	8月6日（火曜日）
草刈り（3）	9月1日（日曜日）
稲刈り	10月6日（日曜日）
稲こき	10月18日（金曜日）
収穫祭	11月23日（土曜日）



取組主体の紹介

田んぼの学校活動場所である胆沢若柳の内田ため池と周辺の小水田は、ほ場整備の際に生態系保全の視点から現況保全され現在に至っています。

農作業を通じて自然環境の大切さなどを学ぶことを目的に、岩手大学のため池保全サークル (Ike-ic) が中心となり、環境学習を行うとともに、地域住民の参加、ご協力をいただきながら昔ながらの農法によるもち米栽培を行っています。

イベントに参加するには

実施時期や実施内容等については以下の窓口までお問合せ下さい。

奥州市農地林務課（農村整備係）
〒023-8501
岩手県奥州市水沢大手町一丁目1番地
Tel：0197-34-1762
Fax：0197-24-1992



おおさき生きもののクラブ

・宮城県／大崎市
・開催時期：通年

自然・農・食・景観・多種多様な地域資源が織りなすフィールドミュージアム（世界農業遺産）

体験学習等のイベント内容

・大崎地域の1市4町は、平成29年12月に「世界農業遺産」に選定されました。本地域は、江合川、鳴瀬川の流域に広がる低平湿地を水田利用することで、水田農業地帯として発展してきました。その一方で、東北の太平洋側に特有の冷たく湿った季節風「やませ」による冷害や、山間部の急勾配地帯から平野部の緩勾配地帯に遷移する地形的要因による洪水、渇水が頻発する地域でもあります。しかし、本地域の農家は、厳しい自然環境下で「水」の調整に様々な知恵や工夫、多くの苦労を重ねながら、稲作を中心とした水田農業を発展させ、「大崎耕土」と称される豊饒の大地を継承してきました。

・また、水田や水路、水田の中に浮かぶ森のような屋敷林「居久根」のつながりは、豊かな湿地生態系を育み、多様な動植物の生息空間と独特の農村景観を形成しています。これら、農業及び農業が育む文化、生物多様性、美しく機能的な農村景観が一体となった農業システムそのものが、未来に残すべき「生きた遺産」です。



おおさき生きもののクラブの活動風景（写真提供：大崎市）

取組主体の紹介

おおさき生きもののクラブは、生きものの観察を中心とした体験型環境教育プログラムです。小学1年から参加できる一般プログラムと、詳しく学びたい小学4年生以上が参加できる専門プログラムがあり、各協力団体が持ち回りで主催者となり、毎回内容の異なる様々なイベントを開催しています。

イベントに参加するには

本イベントは、大崎市と市内のNPO法人等が協力して大崎市内に在住する子供たちを対象に企画しているものですが、詳細については、各協賛団体までお問い合わせください。

○NPO法人 蕪栗ぬまっこくらぶ

(TEL:0229-38-1401 FAX:0229-38-1402)

○NPO法人 シナイモツゴ郷の会

(事務局：TEL 080-1832-8437)

○NPO法人 田んぼ (TEL:0229-39-3212)

○NPO法人 鬼首山学校協議会 (TEL:0229-86-2058)

○NPO法人 エコパル化女沼

(事務局：TEL 0229-86-2058)

○大崎自然界部

(TEL:0229-22-1141 FAX:0229-22-1404)

○Social Academy 寺子屋 (TEL: 0229-25-6607)



「居久根」
(写真提供：大崎地域世界農業遺産推進協議会)

収穫体験ツアー

・群馬県／渋川市
・開催時期：年2回

旬の農産物を収穫して農業への理解と興味を深める！

体験学習等のイベント内容

・渋川市で生産されている農作物の収穫体験を通じて、農業を身近に感じ理解を深めてもらいます。

・体験内容は、参加者が生産者のほ場に伺い、野菜の説明を聞いたり収穫の方法を教してもらいながら、作物の収穫作業を体験します。また、体験終了後には、自分で収穫した作物の一部をお土産として分けていただき、収穫の楽しさを感じてもらいます。

・収穫体験には、毎回、市内外の家族連れから高齢の方まで幅広く参加があり、収穫作業を楽しんでいます。普段お店や食卓で目にしている作物が、渋川市内で生産されている身近な作物であることに気づいてもらったり、収穫作業を通じて生産者と交流を深める機会になったりと、農業に対する理解と興味を深めています。



体験先の紹介

渋川市内の農作物生産者のほ場に伺い収穫作業を体験します。旬の野菜や生産が盛んな作物、栽培が始まった新しい作物等、生産者に協力してもらい取り組んでいます。

（過去の収穫品目）

- | | |
|---------|---------|
| ・たまねぎ | ・リンゴ |
| ・じゃがいも | ・しいたけ |
| ・ブルーベリー | ・キャベツ 等 |

イベントに参加するには

広報紙および市ホームページにて収穫体験への参加（年2回・有料）を募集しています。

- ・取組主体等：渋川市
- ・問合せ先（TEL等）：0279-22-2593
- ・参考URL：<https://www.city.shibukawa.lg.jp/>



豊島区の親子が秩父で田植え・稲刈りを体験！

体験学習等のイベント内容

- ・秩父市では、東京都豊島区の消費生活センターが募集・決定した参加者（親子）に対して田植え・稲刈り体験を行っています。参加者の方は、普段口にしているお米がどのように作られるかを学びます。
- ・体験内容は、秩父市大田地区で親子そろっての田植えと稲刈りです。また、休憩時には地元産のお米で作ったおにぎり等を提供し、五感を使って秩父の農業を体感していただいています。
- ・この活動に豊島区の方が年間で延べ100名程度参加し、農業への理解を深めています。また、姉妹都市である豊島区と秩父市での交流を行うことで、都市と農山村のつながりを再認識する場となっています。



取組主体の紹介

取組主体である農事組合法人大田営農は、ウイスキーブランド「イチローズモルト」で知られる秩父市みどりが丘にあるベンチャーウイスキーに原料として大麦を提供するなど、地元の農業、産業の活性化に積極的に取り組んでいます。

イベントに参加するには

イベントの周知・募集は豊島区消費生活センターが実施しています。お問い合わせは下記へお願いいたします。

- ・取組主体等：農事組合法人大田営農・豊島区・秩父市
- ・問合せ先（TEL等）：03-4566-2416

（豊島区文化商工部生活産業課消費生活グループ）

・参考URL：
<https://www.city.toshima.lg.jp/124/kurashi/shohi/center/2005270958.html>（豊島区ホームページ）



家族で地元農家と交流しながら農業体験

体験学習等のイベント内容

・都市と農村の共生・交流の推進と、成田市農業の魅力のPRや地産地消の推進を目的に、市内の小学校に通う子供がいる家庭を対象に農業体験教室を行っています。

・体験教室に参加する家族は、春の植付から翌年3月まで、各家族に割り振られた区画で作物を育てます。はじめは教室を運営している成田市農業青年会議所がいくつか夏野菜の苗を用意しますが、空いた部分には各家族で好きな作物を栽培します。栽培方法等でわからないことがあれば体験教室の際や農業青年会議所メンバーが運営しているFacebookで質問することができます。また、秋には梨狩り、冬にはイチゴ狩りを農業青年会議所メンバーの農園で行います。年4回の教室の際には農作業の後に地元農産物の試食やアトラクション等を行っています。

・この活動には年間約20家族が参加し、地元農家との交流を深めています。



取組主体の紹介

取組主体である成田市農業青年会議所は、成田市内の45歳未満の農業者で構成されています。構成員の農家はイネ、サツマイモ、梨、イチゴ等様々な作物を栽培しています。この活動以外にも、地元のお祭りに積極的に参加し地元農産物のPRを行っています。

イベントに参加するには

毎年4月頃に「広報なりた」にて募集をしております。

・取組主体：成田市農業青年会議所（事務局：成田市役所農政課内）

・問合せ先（TEL等）：TEL 0476-20-1542

MAIL nosei@city.narita.chiba.jp

・参考URL：成田市農業青年会議所フェイスブック
https://m.facebook.com/naritashinougouseinennkaigisho/posts/?ref=page_internal&mt_nav=0

島内の小中学生が農業体験に参加し農作業や歴史文化を学習！

体験学習等のイベント内容

・八丈島は、伊豆諸島で唯一水田が開拓された島ですが、花き観葉植物栽培へと変わり水田の姿が消えつつあるなか、島内にはため池、水神社、水の碑等が現存し、当時の面影を残しています。このような歴史文化や美しい農村景観を保存、継承する目的で、田園空間整備事業により島内の小中学生のための体験場所として農園（水田）が整備されました。

・体験内容は、田植え及び収穫作業を地元農家からアドバイスをもらいながら行います。また、セレモニーとして「八丈太鼓」や「石投げ踊り」等の伝統芸能の披露があり、収穫したお米は参加者へ配布も行っています。

・この活動に島内の小中学生のみならず、大人の方も含め年間150人が参加し、中には何度も参加する方もおり、水田での農作業や歴史文化への造詣を深めています。



6月【田植えの部】

取組主体の紹介

取組主体である八丈島田園空間整備運営委員会（事務局：八丈町）は、「離島の水循環」をテーマに田園景観などを実物大の博物館として復元しました。その博物館の中核施設である「和泉親水公園」の中の 하나가和泉体験農園（水田）となります。

委員会では、毎年イベントを実施してきており、新型コロナウイルス感染症の拡大防止の影響で中止した昨年を除き、既に17回を数えます。

【石投げ踊り】



9月【収穫の部】



イベントに参加するには

開催日が決まりましたら島内のスーパーや公共施設にポスター掲示を行い募集しています。参加希望の方は当日会場までご来場ください。

・取組主体等：八丈島田園空間整備運営委員会

・問合せ先：八丈町産業観光課 Tel.04996-2-1125

・参考URL：

https://www.town.hachijo.tokyo.jp/kakuka/sankan/sankan_denen.html

里都まち♡なかい農作物収穫体験

・神奈川県/中井町
・開催時期：6月～11月

農業体験を通じて農作物を収穫する喜びと食の大切さを学ぶ！

体験学習等のイベント内容

・中井町では様々な分野の農業を体験できるように毎年3コースを実施しています。

- ・米コース 田植えから稲刈り
- ・夏コース ブルーベリー収穫等
- ・秋コース みかん収穫等

・米コースは田植え、草取り及び稲刈りまでのひと通りを体験できます。夏コース・秋コースは収穫体験を行っております。

・この事業は町内外の方が参加され、幅広い年齢の方々に農作物を収穫する喜びと食の大切さを体験していただいております。



取組主体の紹介

中井町では農業委員会委員・農地利用最適化推進委員の協力により収穫体験事業を毎年実施しております。この事業は参加者に中井町を知ってもらう良い機会であると考えていますので、継続的に実施しております。

また、小学校の授業の一環で米が出来るまでの体験も併せて実施しております。

イベントに参加するには

参加方法等は中井町HPをご覧ください。（有料）

- ・取組主体等：中井町 産業振興課
- ・問合せ先（TEL等）：0465-81-1115



いっしょにつくろう！いきものいっぱい農園

体験学習等のイベント内容

- ・自然豊かな早川町のほぼ中央に位置する三里地区では農業体験を通じて都市と農村をつなぎ、人と自然が共生する地域づくりに取り組んでいます。
- ・毎月1～2回、2泊3日で東京からの送迎バス付きの「バス活動日」を設けて、共同生活をしながら楽しく農業体験を行っています。野菜の収穫以外にも土作りやマルチシート張りなど、普段なかなか体験できない様々な畑作業をその人のペースに合わせて無理せず体験できます。
- ・また、作業の中心となる生物の多様性や生態系に配慮した「いきものいっぱい農園」は、すみかとなる草むらを残し、コンパニオンプランツを利用することで、農薬を使わず草と昆虫が共生する畑作りを実現しています。
- ・この活動には年間300人程の申し込みがあり、交流イベントには地域住民の方々も積極的に参加しています。



取組主体の紹介

取組主体である早川エコファームは地元でとれた新鮮野菜を扱う直売所「おばあちゃんたちの店」の運営や早川集落伝統の味噌造りを復活させるなど地域の活性化に取り組んでいます。

イベントに参加するには

NPO法人早川エコファームのHPから会員登録申し込みをすることで農業体験に参加できます。

- ・取組主体等：NPO法人早川エコファーム
- ・問合せ先（TEL）：0556-48-2817
- ・参考URL：<http://eco-farm.or.jp/>



松明をかがけ、晩夏の夕暮れ時に棚田の畦道を練り歩く♪

体験学習等のイベント内容

【田植・稲刈り体験】

・普段農作業と縁の無い都会の小中学生や、棚田に足を運ぶ機会のない地域の子供達に、棚田の存在を知ってもらおうと共に、手植えによる水の温度や土の手触り、里山の風など、五感を働かせて体験してもらいます。

・ベテランの委員の指導により、田植えや稲刈りを体験できます。銀座中学校を始め、都心部の学校も数多く受け入れています。

【ししおどし】

・香川県小豆島 中山千枚田の伝統行事「虫送り」を参考に、同地の助言も頂きながら令和2年に初開催。竹で作った松明に火をつけ、害虫駆除・五穀豊穡を祈願して棚田内を練り歩きます。地域で長く続く伝統行事に共に育てながら、農村文化を学ぶ体験型のイベントです。



「ししおどし」

取組主体の紹介

『稲倉の棚田保全委員会』は、「日本の棚田百選」（農林水産省 平成11年）にも認定された稲倉の棚田を舞台に、棚田の保全活動に取り組んでいます。今回紹介した活動以外にも、地元酒蔵の岡崎酒造(株)と連携した「酒米オーナー」での搾りたて日本酒の直汲み体験や、北アルプスと上田市街を望む眺望を活用したアウトドアフィールド「棚田キャンプ」など、新たな取組に積極的に挑戦しています。

イベントに参加するには

随時、小中学校や保育園等から学校課外学習の申し込みを受け付けています。「ししおどし」は棚田オーナー限定のため、まずは春までに棚田オーナーへの入会を！（どちらも有料です。）

- ・取組主体等：稲倉の棚田保全委員会 オーナー事務局
(上田市役所農林部 農山物マーケティング推進室)
- ・問合せ先（TEL等）：0268-21-0053
- ・参考URL：<https://inaguranotanada.jimdofree.com/>



棚田で、
自然環境と食育学習

稲倉の棚田
学校課外学習
概要書



↑「棚田キャンプ」



姨捨の棚田「田植え・稲刈り体験」

たごと

芭蕉も詠んだ「田毎の月」日本遺産の棚田で農作業体験♪

体験学習等のイベント内容

【田植・稲刈り体験】

・普段農作業と縁の無い都会の小中学生や、棚田に足を運ぶ機会のない地域の子供達に、棚田の存在を知ってもらうと共に、食と農の重要性を学んでいただけます。

・保育園や小・中学生による体験教室では、保全団体の農家からアドバイスを受けながら田植えや収穫を体験します。地元の中学校には、姨捨の棚田を舞台に地域の活性化について研究しているグループもあります。

・近年はコロナ禍で参加が難しい情勢下ではありますが、例年保育園や小中学生の体験として年間500人が参加しており、秋には収穫祭も開催し地元農家との交流を深めています。



- ・田植え体験
- ・稲刈り体験
- ・脱穀体験

地元学校から多くの参加があり、棚田の保全に取り組んでくれています。



取組主体の紹介

姨捨の棚田は「日本の棚田百選」（平成11年）や、「月の都千曲」として「日本遺産」（令和2年）にも認定された、歴史と文化ある棚田です。また善光寺平を一望できる眺望も抜群で、JR姨捨駅からの眺めは日本三大車窓にも選ばれています。『千曲市棚田保全推進会議』では、この貴重な棚田を後世に残すためオーナー制度等の保全活動に取り組んでおり、収穫された「姨捨の棚田米」は全国食味鑑定コンクールで「プレミアム米」に認定されています。

イベントに参加するには

随時、小中学校や保育園等から田植え・稲刈り体験の申し込みを受け付けています。ご家族や会社仲間の皆様は「棚田貸します制度」（棚田オーナー制度）へお申し込み下さい。（いずれも有料です。）

- ・取組主体等：千曲市棚田保全推進会議
(千曲市役所経済部農林課)
- ・問合せ先（TEL等）：026-273-1111（内線3281）
- ・参考URL：<https://chikuma-kanko.com/>

千框棚田で米づくり体験

・静岡県／菊川市
・開催時期：通年

農業体験を通じて棚田を保全し 里山の景観を守る！

体験学習等のイベント内容

・千框棚田では、棚田オーナー制度により、春の田植え準備・田植え・草刈り・稲刈りなど年間を通じて農作業を体験することができます。また、スガイ作り、しめ縄作り、生きもの教室や茶草場農法体験、紅茶づくりなど、多くのイベントにも参加することができます。

・農作業体験やイベントでは、絶滅危惧種でもあるニホンアカガエルや在来種の植物など棚田の生きもの観察を通じて、棚田の多面的機能、生物の多様性を学びます。棚田の歴史やその役割についても知ることができます。

・この地域では世界農業遺産に認定されている「静岡の茶草場農法」というお茶づくりが行われており、これは茶草場（採草地）のススキなどを茶畑の畝間に敷く農法です。せんがまち棚田では、イベントを通じて茶草場農法について学ぶことができます。人が農業によって手を入れることで自然が守られており、棚田と周辺の茶草場には多種多様な動植物が住んでいることに気づかされます。

・千框棚田は、オーナーの保全活動だけでなく、学生の研究や企業の研修の場にもなっており、これらの活動が貴重な里山の景観を守ることに繋がっています。



茶草場

取組主体の紹介

取組主体であるNPO法人せんがまち棚田倶楽部は、「日本の原風景棚田を守り、先人の苦労を肌で感じ、子ども達に伝えていこう」と、地域の農家を中心となって、設立されました。この棚田は千枚の田んぼという意味から「千框＝せんがまち」と呼ばれており、最盛期には3,000枚もあったと言われています。この名前の由来となっている多数の棚田の復元・保全と棚田文化の伝承、地域振興を目指して活動しています。

また、静岡大学棚田研究会の学生さんたちもNPOと連携し棚田の保全に取り組んでおり、棚田活動のサポートをしています。

イベントに参加するには

ホームページ「棚田いこうよ.net」で検索し、お問い合わせフォームから御連絡下さい。

(URL) <https://www.tanada1504.net/>

年間を通じて体験できる棚田オーナーや、賛助会員も募集しています。



農村での体験と共有をテーマに持続可能な集落に！

体験学習等のイベント内容

・「上三光農村環境保全・清流の会」は、農家の減少・高齢化で耕作放棄地と獣害が増えた状況を改善すべく、集落に人を呼び込むことを目指し、地域資源を宝と捉え、農業体験交流などを実施しています。

・同会は、田植体験や稲刈り体験のほか、獣を誘引してしまう放置果樹の対策として、柿酢作り体験を行っています。また、獣が好む遊休農地を減らすため、遊休農地で蕎麦を栽培・収穫して味わう「蕎麦を楽しむ会」を開催しています。さらに、耕作放棄地をビオトープに再生し、そこで生きもの調査などの体験も実施しています。

・これらのイベントに大学生など年間に延べ約200人が参加し、約4.5haの耕作放棄地が解消されました。獣による農作物被害額も数年前の半分以下になりました。



耕作放棄地で栽培した蕎麦を楽しむ会

取組主体の紹介

取組主体である「上三光農村環境保全・清流の会」は、上三光集落の住人が主体で、自治会・農家組合のほかNPO法人や任意団体などで構成されている団体です。農業体験だけでなく、NPO・市・JA等と共同で、都市住民を対象に獣害対策研修会を開催したり、GISを活用した集落環境診断を行うなど集落づくり全般に取り組んでいます。

イベントに参加するには

農業体験等について、団体公式のFacebookで発信し、参加を募集しています。

- ・取組主体等：上三光農村環境保全・清流の会
- ・TEL：090-5434-3185
- ・団体Facebook：<https://ja-jp.facebook.com/kamisanko/>



田植体験の一般参加者

大学生が山村と交流を持ち、都市部では味わえない体験を！

体験学習等のイベント等の内容

なんとし

・「南砺市商工会利賀村事務所」は、過疎化が進み、地域の元気づくりが急務となっていたことから、都市部大学生との交流の取組などを開始しました。

・同事務所は、都市部大学生と継続的な交流を持ち、合宿で山村体験等を行うほか、南砺市の産品を都市部各所で販売したり、共に外国人受入れツアーを企画したりしています。また、長期的に小学生の教育旅行も受け入れており、近年は修学旅行などの問合せも増えています。さらに、無農薬農業に取り組む「百姓塾」において、どぶろく体験、丸太切り体験などの農林漁業体験を実施しています。

・都市部大学生が、SNS等で情報を発信し外国人旅行者の訪問が増えました。都市部の学生と協力し土産品を開発し、都市部でのPRにより売上げが向上しています。



そば粉100%の手打ちそば体験

取組主体の紹介

取組主体である「南砺市商工会利賀村事務所」は、観光振興や特産振興の事業企画、実施等を行っています。宿泊や外国人受入れは、民宿組合を中心に行い、ハイキングや森林とのふれあい体験活動については、利賀飛翔の会や観光協会等に協力要請しています。交流活動の実施や都市部での展示会等は、都市部大学生の協力を得ています。

イベントに参加するには

農業体験等の情報をHPで紹介しています。詳細はお問い合わせください。

南砺市商工会利賀村事務所

・ TEL：0763-68-2527

・ URL： <https://www.shokoren-toyama.or.jp/~toga/index.html>

民宿中の屋

・ TEL：0763-68-2104

・ URL： <https://minsyuku-nakanoya.com/>



大学生が青山ファーマーズマーケットで利賀村の産品を出品

カエルもトンボもみんな村民 自然体験村「ケロンの小さな村」

・石川県／能登町
・開催時期：4月～11月

子ども心に火を灯す…、そんなケロン村を目指しています！

自然体験やイベント等の内容

じょうのり

・上乗夫婦は、定年退職を機に故郷の荒れた里山を再開発して子供たちが自然体験や環境学習ができる場を創ろうと、自然体験村「ケロンの小さな村」を創設しました。

・村の棚田では田植や稲刈り、森では植樹や薪割りなど、里山を創り守る貴重な体験ができます。

また、自然体験の後は美味しい米粉のピザづくりを楽しみましょう。使うお米も野菜ももちろんケロン産です。大きな石窯で香り高く焼き上げ、野外レストランで食べる手作りピザは最高の味と思い出になるでしょう。

さらに、子ども木工教室では間伐材を使った椅子や本立てなどの制作体験を、森や川、ビオトープでは夏・秋・冬の自然教室など、里山の豊かさや大切さを楽しく遊びながら学べます。

・年間5,000人を超える来村者があり、世界農業遺産でもある能登半島の人気スポットです。



収穫を喜ぶ上乗夫婦



夏の自然観察会

取組主体の紹介

ケロンの小さな村では、「自力開発」と「長期計画」を理念に、①農業の6次産業化 ②観光振興で地域の活性化 ③子どもの心に火を灯す、の3本柱で取り組んでいます。中でもケロンのお米を自家製粉した石窯焼きの玄米パン、玄米ピザは人気商品。

イベントに参加するには

村は土日の10～17時で開いています。また、公式Facebookにてイベント情報等も発信し、参加を募集しています。

- ・申込先：keron.mura@gmail.com
- ・所在地：〒928-0326石川県鳳珠郡能登町斉和た部2 6
- ・TEL：0768-62-1471 (090-4322-1380)
- ・公式Facebook：<https://www.facebook.com/keronmura/>



夫婦2人で創り上げた「ケロンの小さな村」

農家民宿群「春蘭の里」

しゅんらん さと

・石川県／能登町
・開催時期：通年

80種類以上の体験メニューがある農家民宿群！

体験学習等のイベント等の内容

- ・集落の存続に危機感を持った有志が地域活性化を目指して、「春蘭の宿」を核に地域ぐるみで農家民宿を運営。
- ・各農家民宿は、1日1客限定とし、農家民宿の質や料金を統一しています。化学調味料不使用の地元食材のみを使用した料理を輪島塗の器で提供しています。また、田植、稲刈りだけでなく、野菜の収穫体験や自然体験など季節ごとに異なる80種類以上の体験メニューを用意しています。さらに、大学と連携し、体験メニューの改善に取り組むほか、修学旅行の受入れにも力を入れています。
- ・宿泊客数は年間13,000人（H30）にもなっています。農家民宿の売上げが増加し、農家民宿開業を目指す若者が定着したり、移住者の増加にもつながっています。



黒瓦と白壁の農家民宿群



修学旅行の受入れ

取組主体の紹介

取組主体である「春蘭の里実行委員会」は、集落の存続に危機感を持った有志が黒瓦、白壁などの地域の景観や伝統を地域資源として、農家民宿・農林漁業体験事業を実施しています。また、47軒ある農家民宿の受付窓口を一本化しました。

イベントに参加するには

宿泊や体験に関する情報をHPで発信し、参加者や宿泊者を募集しています。

- ・取組主体等：春蘭の里実行委員会
- ・TEL：0768-76-0021
- ・参考URL：<http://shunran.info/>



輪島塗の御膳による食事の提供

日本一の伝統の技の宝庫と農村のくらしを学びに海外からも！

体験学習等のイベント等の内容

・ ロハス越前は、農家に泊まって、農業体験・自然体験・伝統産業体験を行うグリーン・ツーリズムを展開。

・ 農家民宿の宿泊者は、田舎での滞在や農業体験等を通じて、自然の息吹や受け継がれている伝統文化を体感できます。具体的には、田植、稲刈りなどの農業体験はもちろん、ホテル観察や川遊びなどの自然体験、越前地域にある和紙・漆器・打ち刃物・織物・焼き物などの伝統産業を体験できます。さらに、教育旅行の受入れにも力を入れており、米や大豆のオーナー制度など年間を通じた体験も提供しています。

・ 体験学習の延べ受入人数は892人(R2年)となり、地域の祭りにも賑わいが増加するとともに、受入農家や地域住民が地域の良さ、食の豊かさを再認識しています。



海外からの教育旅行の受入れ



農業体験の実施

取組主体の紹介

取組主体であるロハス越前は、グリーン・ツーリズム事業を行う団体です。体験事業だけではなく、農家民宿の運営や、地元農家、職人の手によって作られた特産品・伝統工芸品のセレクトショップの運営も行っています。

イベントに参加するには

農業体験・自然体験・伝統産業体験について、定期的にHP（下記URL参照）に掲載し、参加を募集しています。

・ 取組主体等：ロハス越前

・ TEL：090-2125-0879 ・ Mail：info@lohas-echizen.org

・ 参考URL：https://lohas-echizen.org/



地域の伝統 和紙の紙漉き体験

種蔵の棚田と美しい風景を守るため、参加型プログラムにより
休耕となっている「みょうが畑」を復活させ景観保全に貢献！

体験学習等のイベント内容

・休耕となっている田畑を活用し、地域の名産品である「みょうが」畑のオーナー（R3～）や作業毎に参加者を募集、参加者はみょうが畑での農作業体験等を通じて、栽培を楽しみながら良好な景観の保全に貢献しています。

・飛騨市ふるさと種蔵村「myみょうがプロジェクト」は、みやかわみょうがの師匠（農家）の弟子になり、師匠から栽培方法を教わり、実際に栽培するプロジェクトで、オーナーは、種蔵地区の棚田において、みょうが畑の草取り、間引き、収穫、藁（わら）敷きなど年4回以上の農作業を行います。

・この活動に県内外から年間約80人参加し、中には関東から参加する家族連れもあり、地元農家や参加者同士の交流を深めています。



←大きくてぷっくり
みやかわみょうが



みょうが収穫のレクチャーを受ける参加者（8月）

取組主体の紹介

取組主体である「飛騨市ふるさと種蔵村」は、飛騨市宮川村種蔵の棚田と石積み、周囲に点在する板倉が醸し出す貴重な原風景を後世に引き継ぐことを目的として設立（H30）された架空の村（組織）です。

県内外から種蔵を愛する「村民」を募集（申請により登録）、集落内の草刈りや石垣修繕、棚田での米やみょうがの生産等景観保全活動に支援いただき、貴重な景観資源を保全しています。

イベントに参加するには

「村民」及び活動に興味のある方等を対象に各種景観保全活動への参加を随時募集しています（下記URL参照）。

- ・取組主体等：飛騨市ふるさと種蔵村
- ・問合せ先（TEL等）：「飛騨市ふるさと種蔵村」事務局
（飛騨市宮川振興事務所産業振興係）
TEL: 0577-63-2312
- ・参考URL：<https://hidasuke.com/events/event/>

写真提供：「ヒダスケ！」（事務局：飛騨市地域振興課）

↓板倉を背景にみょうが畑の草取りの様子（4月）



みょうが畑の藁敷き
（冬支度）の様子
（10月）



東海農政局の
←当該ウェブサイトはこちら

田んぼアート会場で稲作体験

・愛知県／名古屋市港区
・開催時期：5月～12月

葉の色の異なる古代米等を使って田んぼに絵を描く田んぼアートの制作を通して、農家と市民が一緒になって楽しく稲作体験！

体験学習等のイベント内容

・都市化による農地の減少や農家の高齢化・後継者不足が進む中、名古屋市内有数の米どころ名古屋市港区の水田において、市民と農家が協働で農を支える活動を推進し地域の水田を保全し、水田の多面的機能を維持しています。

・体験内容は、葉の色の異なる古代米等を使って田んぼに絵を描く田んぼアート制作を通して、①田植え、②観察会、③稲刈りの各作業を主に手作業で農家の方が指導される方法で共同で行い、④収穫祭では参加者には収穫したお米やお酒が配られます。

・この活動は名古屋市在住・在勤の方を100口（1口当たり5名まで）募集しており、農家と市民が一緒になって名古屋の稲作に触れ、生き物と触れ合い、楽しみながら農についての学びを深めています。



田植えの様子 (R3.5.9)



田植えで人気の田舟乗り (R3.5.9)



稲刈りの様子 (R3.10.10)



稲刈後のコスモス狩り (R3.10.10)

取組主体の紹介

取組主体である「茶屋新田（ちゃやしんでん）田んぼアート実行委員会」（構成員：愛知県、名古屋市、茶屋新田地域資源保全隊※）は、港区南陽地区で、水田との関わりの中で市民と農家が協働で農を支える仕組みを作ることとを目的として、田植え、稲刈り等の体験水田の取組を実施しています。

平成23年からは名古屋市初となる「田んぼアート」を制作し、多くの人々に取組みを発信しています。

※地域の農地・農業用水等の資源を保全・管理し、農村環境の保全向上の活動を行う地元農家主体に結成された組織です。

イベントに参加するには

名古屋市在住・在勤の方で全4回の日程に連続して参加できる方を対象に、毎年4月1日～4月20日に募集（有料）しています。（下記URL参照）

- ・取組主体：茶屋新田田んぼアート実行委員会
- ・問合せ先（TEL等）：名古屋市緑政土木局 都市農業課
TEL 052-972-4071

・参考URL：
<<https://www.city.nagoya.jp/kurashi/category/15-2-7-7-0-0-0-0-0.html>>

写真提供：名古屋市緑政土木局都市農業課



見頃を迎えた田んぼアート南陽 (R3.7.4 観察会)
「令和3年度：千手観音」
(デザイン：愛知県出身にわぜんきゅう氏)

東海農政局の
←当該ウェブサイトはこちら



水田魚道を活かした環境教育

・愛知県／安城市
・開催時期：6月～9月

水田魚道を設置した水田で子供たちと共に生き物観察を定期的
に実施！

体験学習等のイベント内容

・水田魚道設置及び農家の環境保全型農業の実践の協力により多種多様な魚類が遡上等できるようになった水田を活用し、地元の子供たちが生き物観察を行うことにより、農業や環境の大切さについての理解を醸成しています。

・観察会は、榎前（えのきまえ）地区の子供会を中心に、魚道を通り水田と水路を行き来するドジョウ、フナ類等の生き物をタモ網等で採捕、生き物の種類や大きさ等を記録しもとの水田や水路に戻します。結果は町内会で回覧するなどの広報活動も行っています。

・この活動に町内の子供たちが年間延べ約300名参加、非農家である子供たちの父兄の関心も高く、地区内住民の交流を深めています。



↑観察水田で採捕された魚類の観察

↓採捕されたドジョウの計測



水田魚道観察会の様子（H31）

取組主体の紹介

取組主体である「榎前環境保全会」は、榎前地区の農業者のほか地区内全ての関係団体で構成する多面的機能支払交付金の事業推進母体です。

平成18年に愛知県農業試験場の開発した水田魚道を設置したことを契機に、地元の子供が参加して水田魚道を遡上する魚類等を観察する水田魚道観察会や田植え、稲刈り等の稲作農業体験を定期的の実施しています。

イベントに参加するには

榎前環境保全会に問い合わせただけ
れば、地域の子供たちを対象に夏季に定
期的（週2回程度）に実施している水田
魚道生物観察会に参加（見学）可能です。
（下記問合せ先参照）

- ・取組主体等：榎前環境保全会、榎前町内会、子供会
- ・問合せ先（TEL/FAX）：0566-92-0071 榎前環境保全会



↑水田魚道 ドジョウ等が水田と水路とを行き来

右上写真：遡上調査のため水田側に設置した
定置網

東海農政局の
←当該ウェブサイトはこちら



千枚田オーナーになり農業体験

・三重県／熊野市
・開催時期：4月～2月

年間を通じた農業体験等への参加を通じて、日本一とも言われる丸山千枚田の景観の保全、棚田の多面的機能維持に貢献！

体験学習等のイベント内容

・日本一とも言われる丸山千枚田の景観と400年以上続く貴重な農耕文化を守り、後世に残すことに賛同いただけるオーナーが、農業体験等を通じて、千枚田の景観保全、棚田の多面的機能の維持に貢献しています。

・千枚田オーナーが体験できる農業体験及びイベントは、春先作業から順に、①畔（あぜ）塗り作業、②田植えの集い、③虫おくり（伝統行事）、④案山子（かかし）作り教室、⑤稲刈りの集い、⑥収穫祭、⑦畔（あぜ）そり作業、と盛り沢山で、地域住民組織（丸山千枚田保存会）から手ほどきを受けながら体験、参加者には特典として、新米と地域の特産品等が配布されます。

・この活動は毎年2月から募集、①～⑦の体験を4月～2月まで行います。毎年100組を超える申込みがあり、農作業を通じて地域住民との交流を深めています。

豊作を願う地域の伝統行事
虫おくり（6月第1土曜）→
幻想的な情景の中、千枚田
オーナーも行列に参加



千枚田オーナー 田植えの集い
(5月中旬)



東海農政局の
←当該ウェブサイトはこちら



←千枚田オーナー
稲刈りの集い（9月上旬）
↓



取組主体の紹介

取組主体である「（一財）熊野市ふるさと振興公社」は、丸山千枚田を保全するため、「千枚田を舞台に都市住民との交流を図り、一緒になって千枚田を守っていこうという」趣旨のもと、千枚田の一部を利用して千枚田オーナー制度の運営を行っている組織です。

丸山千枚田7.2haのうちの約1.6haをオーナー用として活用しており、オーナーさんは、昔ながらの手作業による田植えや稲刈りのほか、地域のイベント等にもご参加いただいています。

イベントに参加するには

丸山千枚田を愛し保全活動に理解のある方で、地域住民をはじめとした地域の人々とのふれあいを大切にできる方を対象に、オーナーを募集（有料）しています。（下記URL参照）

- ・取組主体：（一財）熊野市ふるさと振興公社
- ・問合せ先（TEL等）：（一財）熊野市ふるさと振興公社
丸山千枚田担当 TEL 0597-97-0640
- ・参考URL：<https://www.maruyamasenmaida.jp>

写真提供：（一財）熊野市ふるさと振興公社

大学生と連携した農業体験

・三重県／津市
・開催時期：5月～9月

大学生と連携し、休耕田を活用した学生田での田植え、稲刈りなどの農業体験を通じて農業・農村の果たしている役割を学ぶ！

体験学習等のイベント内容

・上ノ村（かみのむら）地区からの呼びかけに応じた地域づくりに興味を持つ三重大学の学生が、米づくりや地区行事への参加を通じて、地域の課題に向き合いつつ農業・農村が果たしている役割を学んでいます。

・体験内容（令和4年）は、地区内の休耕田を活用し、田植え、稲刈り、収穫祭などの農業体験を三重大学の学生とともにを行います。また、お寺の境内において、昔ながらの盆踊りに沖縄のエイサーを新たに取り入れた「上ノ村成願寺（じょうがんじ）盆踊り」（8月下旬）への参加も可能です。

・この活動に参加することにより、取組主体の理念である「田んぼを田んぼとして守る」活動に貢献することができ、参加者と学生そして地区内住民との結びつきが強まります。



↑コロナ前の収穫祭の様子（例年10月）



コロナ前の学生田での学生による稲刈りの様子（例年9月）

取組主体の紹介

取組主体である上ノ村環境保全プロジェクト（以下「KKP」という。）は、上ノ村地区の全世帯と農地への入り作者で構成されるむらづくり推進組織です。

KKPは、「主体が多い地域は楽しい」という思いから、事業ごとに活動チームを作り、地域が一体となった活動を展開しており、三重大学の学生との縁結び事業では、休耕田での米作り、盆踊りの準備等多彩な活動により地区住民との交流を活発化させています。

イベントに参加するには

上ノ村情報局に問い合わせいただければ、学生たちの協力のもと、学生田での田植え、稲刈り、収穫祭等の農業体験や上ノ村成願寺盆踊り等への参加が可能です。（下記問合せ先参照）

- ・取組主体等：上ノ村環境保全プロジェクト
- ・問合せ先：上ノ村情報局HP 「お問い合わせ」フォーム
- ・参考URL：<https://kankooayji.wixsite.com/kaminomura>

コロナ前の
上ノ村成願寺盆踊りの様子→
（例年8月下旬の土曜日）



学生田での学生によるコロナ前の田植えの様子（例年5月）



東海農政局の
←当該ウェブサイトはこちら

写真提供：上ノ村環境保全プロジェクト

近江商人の精神「三方よし！」を手本とした農村生活体験

体験学習等のイベント内容

・滋賀県日野町は近江日野商人を輩出した町であり、近江商人の「売り手よし 買い手よし 世間よし」の「三方よし」の教えにならった田舎体験を提供します。

・体験内容は、農村生活体験（農泊）と家業おまかせプランとなります。家業体験の内容は、受入家庭が決定します。体験参加者がプログラムを選択することなく、実際に出会ってからの子どもたちの様子を見ながら臨機応変に対応します。

・これまでに受け入れた人数は、県外からの修学旅行生など24,000人を上回ります（リピーター率約70%）。



取組主体の紹介

「売り手よし 買い手よし 世間よし」の近江商人の精神を手本として、「売り手＝迎えるもの」には地域資源に対する自信と誇りの回復を、「買い手＝訪れる人々」にはほんものの体験を通じた心からの感動を、「世間＝地域」には人が輝く人的、経済的活性化をもたらす「三方よし！近江日野田舎体験」の実現に向けて、意のある仲間が集い、人と自然、農林商工業、生活文化等の地域資源をテーマにした地域の活性化に寄与することを目的として活動しています。

様々な農村体験（ホームステイ）



畑作業で食生産現場を知る



田んぼの補植作業



共同調理で食を学ぶ



イノシシと共に 命をいただく教育

イベントに参加するには

最寄りの旅行会社へお問合せ下さい。

・取組主体等：一般社団法人 近江日野交流ネットワーク

・問合せ先：（TEL）0748-52-6562

・参考URL：<https://www.omi-hino.jp/information/>

ゆりかご水田の 田植え・収穫体験

・滋賀県／野洲市
・開催時期： 5月～10月

「魚のゆりかご水田米」で地域と琵琶湖を元気に

体験学習等のイベント内容

・魚のゆりかご水田は、琵琶湖と田んぼとをつなぐ排水路に魚道を敷き、魚の生育環境を守り、生きものと人とが共生する命あふれる農村の再生を目指すプロジェクトです。

・田植え体験・田んぼの生き物観察・稲刈り体験など様々なイベントをとおして自然環境や食について学べます。

・多くの生きものを育み、生きものが育つ田んぼで お米づくりを体験することや地元農家の方々との交流によって人々の多様性が生まれます。



取組主体の紹介

「せせらぎの郷」では、体験型イベントの実施を基本とした都市住民との交流のほか、地域ブランド作りによる6次産業化にも取り組んでおり、地元酒造会社の協力のもと、「魚のゆりかご水田米」（コシヒカリ 100%）による純米吟醸酒「月夜のゆりかご」の製造・販売をしています。

イベントに参加するには

田植え、田んぼの生き物観察会、収穫イベントへの参加については、以下のHPで募集しています。

- ・取組主体等：せせらぎの郷
- ・問合せ先（TEL等）：090-9214-0055
- ・参考URL：<http://seseraginosato.net>



京都丹波「食と森の交流の都」プロジェクト

・京都府／亀岡市、南丹市、京丹波町
・開催時期：通年

京都の由緒ある田舎の暮らしを体験できる！

体験学習等のイベント内容

・京都丹波の都市農村交流の取組をさらに促進し、交流人口の拡大や農林畜産物の生産・販売拡大による地域の活性化を図ることを目指し、「京都丹波・食と森の交流協議会」を設立。

・小・中学校を対象とした農村宿泊型教育事業(農村民泊)を柱に、京のブランド製品の収穫体験等の食のプログラム、ネイチャーガイドハイキング等の森のプログラム、伝統文化・芸術体験の芸術のプログラム等、各種体験プログラムがあります。

・インバウンドの農業・農村体験受入れも開始し、国内外から多くの方が利用しています。



取組主体の紹介

京都丹波・食と森の交流協議会は、「教育体験旅行」の一環として「農村民泊」を行っています。

旅行中のトラブル発生に備え、協議会を通じて学校・旅行会社添乗員・京都府が連絡を取り合うなど、農家の受け入れ態勢が整ってきたほか、国内外に評判が広がっている背景から、森の京都地域振興社（亀岡市追分町）の業務委託を受け、福知山、綾部市を含む「森の京都」エリア全域に事業拡大しています。

イベントに参加するには

小学生から高校生を対象に農業体験への参加（有料）を定期的に募集しています。

・取組主体等：京都丹波・食と森の交流協議会

・問合せ先（TEL等）：0771-84-2122



地域の自然環境や生き物の生命の尊厳について学び、心を育てる自然体験を提供

体験学習等のイベント内容

- ・『たかつき子ども自然体験学校』は身近な山や野原・畑で植物や生き物とのふれあいを通して自然の楽しさや不思議さ、怖さを知り、自然の中で心をひらいて自然とつながれる子を育てます。
- ・子供達が楽しみながら自然体験をできるよう、拠点となる高槻市阿武山の自然を知り尽くした指導員が、野菜作り、山菜取り、昆虫採集、クリスマスリース作りなど四季折々の自然体験活動を行います。
- ・自然の中での友情や大人達からの愛情は、子供達が友達や生き物達に注ぐ愛情や信頼感につながります。



取組主体の紹介

NPO法人たかつきは、農業活動や野外活動、園芸活動など自然の中での活動を通して、子どもから高齢者、障害者を含めた地域の人々に、自然や植物による心身の癒しの場を提供すること、自然の循環の中での生活を学ぶこと、活動を通して互いの親交を深めること、周辺開発から都市近郊に残された貴重な自然環境を守ることをもって地域福祉の増進と子どもの健全育成、環境の保全等公益の増進に寄与する活動を行っています。

イベントに参加するには

- ・取組主体等：NPO法人たかつき
- ・問合せ先（TEL等）：072-689-9112
- ・参考URL：

<https://npo-takatsuki.org/nature/>



誰もが「楽農生活」の体験や実践ができる！

体験学習等のイベント内容

・「楽農生活」とは、農林水産業体験や農山漁村との交流などを通じて、食や「農」に親しむ兵庫県が提唱している新しいライフスタイルです。県民誰もが「楽農生活」の体験や実践ができる拠点施設として設置されました。

・田植えから稲刈りまで一連の米作り体験を行う「親子農業体験教室」、野菜栽培の基礎知識を楽しく学ぶ「野菜栽培体験コース」、地域でとれた農産物の加工体験、親子で豊かな自然を満喫する「里山再生塾」等を開講しています。

・園内や地域でとれた新鮮な農産物を食材とした「カフェ」と「農産物直売所」を開設しています。



取組主体の紹介

兵庫楽農生活センターは、気軽に「農を体験する」、「農を学び、実践する」、「食を楽しむ」といった楽農生活を実感できる施設です。

団体様向けに、園内での農作物の収穫体験や加工体験、地元野菜をふんだんに使ったカフェでの昼食など、農と食を気軽に体験できる機会を提供しています。

農業や食育の専門スタッフが利用者のご要望に応じ当センターオリジナルの説明や体験を企画しています。

イベントに参加するには

- ・取組主体等：公益社団法人ひょうご農林機構
兵庫楽農生活センター
- ・問合せ先（TEL等）：078-965-2651
- ・参考URL：<https://hyogo-rakunou.com/>

約4万m²の敷地に様々な体験ができる学びの場！

体験学習等のイベント内容

- ・神戸市立神出自然教育園は、五感を通して人やもの、自然とふれあう感動や成就感を味わわせ、豊かな人間性を培うと共に「生きる力」の育成を図ることを教育理念としています

- ・様々な自然体験学習を実施しています。生き物や植物の観察体験、農作業体験、食農体験、野遊び、防災体験などの自然体験学習や宿泊体験などがあります。

- ・この活動は、幼稚園教育や小学校教育の様々な学習プログラムに大きく寄与しています。



取組主体の紹介

神戸市立神出自然教育園は、昭和50年4月に、神戸市立神戸西高等学校園芸科の実習園を市内の養護学校と小学校に自然学習の場として実験的に開放したことから始まりました。

そして、昭和51年4月に旧神戸市立神戸西高等学校園芸科神出農場跡を利用して設立した総合的な教育施設として誕生しました。

イベントに参加するには

学生等を対象に農業体験への参加（有料）を定期的に取り組主体のHP（下記URL参照）に掲載し募集しています。

- ・取組主体等：神戸市立神出自然教育園

- ・問合せ先（TEL等）：078-965-0044

- ・参考URL：<http://www2.kobe-c.ed.jp/szk-it/>



田辺市上秋津の農業を周年で体験できます！

体験学習等のイベント内容

・上秋津は、古くから農業の盛んな地域で、みかん類の周年収穫体制が整っており、また紀州南高梅の産地であることから、6月に南高梅の収穫ができます。これら上秋津の農業の形態を活かし、周年で農業体験ができます。

・上秋津小学校農業体験学習はもう10年以上の歴史があり、そのノウハウを取り入れた豊富なメニューを用意できます。

・一年中、農と触れあいができるといことで全国から多くの方が訪れるようになり、地域も活性化しています。



取組主体の紹介

田辺市上秋津地域に元上秋津小学校をリノベーションし平成20年11月1日オープンした秋津野ガルテンは、都市と農村地域の交流を楽しむための体験型グリーンツーリズム施設です。

住民主導で運営しており、行政と連携をすすめながら、共に地域の活性化のための活動が行われています



イベントに参加するには

学生等（4名以上）を対象に農業体験への参加（有料）を取組主体のHP（下記URL参照）に掲載し募集しています。

- ・取組主体等：秋津野ガルテン
- ・問合せ先（TEL等）：0739-35-1199
- ・参考URL：<https://agarten.jp/taiken/agritaiken.html>

農業体験を通じて農家の方と触れ合える！

体験学習等のイベント内容

・多くの「食」に関する問題が世間を騒がせている中で、「食料生産に深く関わるJAとして食の大切さを伝えたい」との思いから、2003年に思いを共にする農家が集まり「体験農業部会」を設立しました。

・体験内容は、野菜の植付けや収穫、果樹の収穫について、各農作業を地元農家からアドバイスをもらいながら行います。農家とともに作業をし、汗を流し、思いを語り合うことができます。

・この活動に大人から子供まで幅広く参加でき、地元農家との交流を深めています。



取組主体の紹介

JA紀の里は、和歌山県の北部農耕地帯の中央に位置し、中央部を一級河川「紀ノ川」が流れています。

平成12年11月3日にはめっけもん広場（大型農産物直売所）を開設し、既存の5直売所とO I N A C I T Y、道の駅根来さくらの里と合わせて、生・消交流の拠点として大きな成果をみせています。

イベントに参加するには

農業体験への参加を定期的にHPに掲載し募集しています。

- ・取組主体等：JA紀の里
- ・問合せ先：<https://www.ja-kinosato.or.jp/taiken/contact>
- ・参考URL：<https://www.ja-kinosato.or.jp/taiken>



農業体験を通じての棚田保全

体験学習等のイベント内容

- ・農作業を通じ、皆が楽しく喜んで交流ができることがうれしい。農村と都市部との価値観の違いも実感でき、農産物の知識を得ることもできます。
- ・田植えや稲刈り等の体験ができ、とれたお米を全てもらえるだけでなく、収穫祭に参加すると地元の特産品(地元野菜など)をもらえます。作業後には地元の方と昼食をいただくなどの楽しみもあります！(田植え・稲刈り等の参加は必須ではありません)
- ・水稻だけでなく、サツマイモやマコモダケの作付けもできます。
- ・この活動には県外からの参加者も多く、棚田オーナーは毎年更新制ですが、継続オーナーの方も多数おられます。



取組主体の紹介

「いがみ田を守る会」は、平成8年に結成し、棚田保全のためにボランティアを募っての水路清掃活動を行い、翌9年には「棚田オーナー制度」を始めました。オーナー制度の他にも、小学生の棚田学習会や学生ボランティア団体の受入れ等も行っています。

イベントに参加するに

オーナー募集期間は2月～3月。下記URLから募集案内をご確認のうえ、申込先へお申し込みください。

- ・取組主体等：いがみ田を守る会
- ・オーナー制度申込先：
〒681-8501
鳥取県岩美郡岩美町浦富675-1
岩美町役場産業建設課農林係
- ・問合せ先：0857-73-1562 (TEL)
0857-73-1590 (FAX)
- ・参考URL：<http://www.iwami.gr.jp/1971.htm>



『たんぼの学校』 in 山王寺棚田

・島根県／雲南市
・開催時期：春～秋

～古からの稲作文化について、神楽と雲海の里で思いをはせよう！～

体験学習等のイベント内容

・家族みんなで、楽しく作業し、「環境に対する豊かな感性と見識を持つ人を育てること」、「自然と人との共生、都市と農村の共生への途（みち）をさぐることを目的としています。

・『たんぼの学校』は、次の3つのコースに分かれています。

○田植えコース

○稲刈りコース

○棚田祭り＆収穫祭コース

・棚田オーナー制度及びトラスト制度による棚田保全も行っています。オーナー制度では、棚田での農作業を通じ、地元農家やオーナー同士の交流が楽しめます。トラスト制度は、農作業ができない方が資金面での支援を行う制度で、棚田米や野菜を受け取ることができる他、棚田祭り等への案内も受けられます。



取組主体の紹介

「日本の棚田百選」に選定され、行政に棚田展望台を整備してもらったのをきっかけに自治会(集落)の行事として棚田祭りを行うようになりましたが、金銭的等の負担が大きく、中山間地域直接支払事業の集落協定に参加している6世帯が有志となり「山王寺本郷棚田実行委員会」を結成。そして「たんぼの学校」の取組を始めました。

イベントに参加するには

それぞれの活動への申し込みは雲南市農林土木課へ。

・取組主体等：山王寺本郷棚田実行委員会

・問合せ先：0854-40-1053(TEL)

0854-40-1059(FAX)

・参考URL：

<https://www.city.unnan.shimane.jp/unnan/kankou/event/>

(イベント情報の5月頃のカレンダーをご覧ください)



農業体験を取り入れた人財育成研修

体験学習等のイベント内容

- ・日本の原風景が色濃い里山で、農作業という日本古来から引き継がれる協同作業を通して、チームワークで成し遂げることの重要性や尊さを学びます。

- ・研修プログラムは大きく2つ。一つは新入社員向けに、農業体験と研修の融合により自己理解、他者理解を深め、社会人としてのマインドの醸成とビジネスマナー、コミュニケーションを学びます。もう一つは、部門の責任者向けに、リーダー育成研修として、成果を上げるための実践プログラムを実施します。

- ・いずれのコースも、年間2コースで、1コース3日間。田植えや稲刈り、藁編み等の農業体験とビジネス研修、そしてヨガや瞑想をとおして心身の安定や自己管理の方法を学びます。

- ・新入社員研修、リーダー育成研修ともにオリジナルプログラム（ゴールの法則）を導入することで、会社が社会における真の目的（貢献）とその会社の中で成し遂げる自己の役割、責任、やりがいを確立していきます。



取組主体の紹介

上臼みろく協議会は、上臼自治会、(株)パソナグループ、上臼生産組合、しあわせ会（地元ご婦人の会）活動団体等で組織している団体です。

平成27年に設立され、日本の棚田百選に選ばれている「上臼棚田」の復元事業をはじめとして、自然栽培の取り組み、地元の野菜を活用した食の提供（レストラン「臼庵」運営）、特産品開発を行っています。

また、さまざまなイベントや催しをとおして農村文化の継承を行っています。

イベントに参加するには

表題の研修は、新入社員及び部門の責任者程度を対象。他にも研修や講座を実施していますので、まずは下記のHPをご覧ください、頁下方の「メールからお問い合わせ」に要件を入れてメール下さい。

- ・取組主体等：上臼みろく協議会

- ・参考URL：<http://kamimomi369.jp/>



いに 井仁の棚田での田植え/稲刈り

・広島県／安芸太田町
・開催時期：春、秋

“井仁のマチュピチュ”で体験する「井仁棚田体験会」

体験学習等のイベント内容

・棚田を保全するため、また地域住民の集いや都市間交流、伝統・文化の継承を目的として、毎年田植えと稲刈りを地域住民と都市住民で行い、井仁地区と都市住民とのふれあいを通して、棚田保全への取組と井仁地区の活性化を図っています。

・広島県北にある、県内で唯一「棚田百選」に選定された棚田で、手作業での田植え体験と、稲刈り体験を行い、地域住民との交流会も行います。

・アメリカのニュース専門放送局「CNN」のWebニュース特集「Japan's 36 most beautiful places（日本の最も美しい場所“36選”）」で広島県では世界文化遺産の『厳島神社』とともに選出され、外国人にも人気の高いスポットです。



取組主体の紹介

「いにぴちゅ会」とは、棚田がインカの有名な遺跡「マチュピチュ」に似ているとのことで名づけられました。棚田保全のため様々な活動を行っており、2018年には活動20周年を記念して、棚田の魅力について知る講演会等も開催しています。

イベントに参加するには

例年5月末頃まで参加募集を行っています。下記メールアドレスまたはFAXにて氏名・年齢・住所・代表者様のご連絡先をご連絡下さい。

・取組主体等：いにぴちゅ会

・問合せ先：0826-22-6789（TEL、FAX）

ini.tanada.office@gmail.com

・参考URL：<https://cs-akiota.or.jp/enjoy/tourism/ini-tanada/>



山に囲まれた自然がいっぱいの阿東で農作業体験！

体験学習等のイベント内容

・元「山口県農業試験場」の跡地にある「阿東ふるさと交流農園」は、用水設備やビニールハウス、農業用具の無料貸出などの環境も充実しています。農業インストラクターも、気さくで知識豊富な方々ばかりだから安心して野菜作りが楽しめます。

・体験内容は、いもの植え付け・収穫や玉ねぎの収穫がメインですが、他にも収穫した野菜を使ってのバーベキューやピザづくり、ハロウィーンパーティーなども企画されています。

・家族一緒に、特に御子様に楽しんでもらう工夫が満載。利用者からは、農作業を通じ、地元の方とのふれあいや家族間のコミュニケーションを楽しみ、農作物や健康への意識が向上したとの声もあります。



取組主体の紹介

昭和28年4月に山口県農業試験場の徳佐寒冷地分場が設置され、平成20年3月に廃止となった施設を平成22年に阿東ふるさと交流促進センター（通称「阿東ふるさと交流農園」）として活用し、市民農園を通して農業振興と地域活性化をはかることになりました。指定管理者として、NPOあとう（あとう観光協会）が、平成22年4月から当農園を管理をしています。

農業体験ばかりではなく、通年での野菜づくりにも挑戦してみてください。

イベントに参加するには

農業体験等は、年によって実施時期が変わることがあります。以下のHP等で確認の上、お申し込み下さい。

- ・取組主体等：阿東ふるさと交流促進センター
- ・問合せ先（TEL等）：083-956-2194
- ・参考URL：<https://npo-ato.wixsite.com/ato-nouen>



芋堀り体験農園 里むすめ畑

・徳島県／鳴門市
・開催時期：8月～9月、不定休

なると金時の地域ブランド「里むすめ」収穫を気軽に体験！

体験学習等のイベント内容

- ・親子で気軽に農作物収穫体験が楽しめる、一般の方に農作業体験等を通じて農作業の面白さを感じてもらっています。
- ・鳴門の海の潮風香る広大な砂地畑で、最上級のなると金時「里むすめ」を自分の手で掘ってお持ち帰りいただけます。
- ・砂地の畑で、小さなお子様でも簡単に芋堀りができます。水はけ良く、海砂からのミネラルにより甘く育った「里むすめ」を是非味わって下さい。
- ・この活動には県外からも多くの家族が参加し、農作業の楽しさを味わっています。



取組主体の紹介

なると金時「里むすめ」、青首大根「里むすめ」といった、さつまいも・だいこんのブランド産地である里浦の農業・農業者等を支える組織「JA里浦」が100%出資し創設した株式会社です。農地の経営（甘藷・大根の生産）、農作業支援（ファームサービス）、生産物及び加工品の直売事業等、幅広い事業を展開しています。

イベントに参加するには

参加を希望される場合は、一週間前までに下記へ予約を。

- ・取組主体等：株式会社JA里浦ファーム
- ・問合せ先（TEL）：088-612-8401
- ・参考URL：<https://jasatourafarm.com/imohori/>



香川県を一つの大きな農園とする農業体験プロジェクト

体験学習等のイベント内容

- ・野菜や果物の本当のおいしさを知るために大事なこと、それは、作った農家の人に直接、話を聞くこと。つくっている場所をその目で見ること。舌だけでなく、心で！脳で！！体全体でおいしさを味わってもらい、「本当のおいしさ」と「驚き」を体験してください。
- ・農業体験以外にも、「農家がやってくる！」と題した各地での料理教室等も実施しており、内容は毎回変わります。
- ・これまで実施された農業体験では、田んぼでの稲刈り体験、ぶどう園での収穫体験、みかん狩り、いちご狩りやぶどうの箱詰め等々。
- ・体験内容は随時更新されていますので、HPでは是非チェックしてみてください。



取組主体の紹介

「さぬき農園ぐらし」は、農家での農業体験や農家の方による料理教室など、農業を体験できる場所を紹介するサービスです。香川県全体を大きな農園として見立て、食の大切さを学ぶ機会の提供を目的として発足した、さぬきファームプロジェクト協議会の取り組みとなります。

イベントに参加するには

「さぬき農園ぐらし」では、年間を通じて様々な体験が可能です。まずは下記HPにて確認を。

- ・取組主体等：さぬき農園ぐらし
- ・問合せ先：090-9312-1467(TEL)
- ・参考URL<http://sanuki-nouengurashi.com/>



檜谷棚田オーナー制度

・愛媛県／大洲市
・開催時期：田植え期、稲刈り期

“天空の隠れ里”で、1aの田んぼのオーナーになりませんか。

体験学習等のイベント内容

- ・荒廃していく棚田を保全するため、棚田を社会全体の財産と考え、都市住民の協力で保全していきたいと考えています。
- ・体験内容は、棚田1区画(約100㎡)のオーナーとなってもらい田植えや稲刈り時期に、オーナー田で作業を行います。作業時には地元農家等が作業援助を行います。また、おやつのプレゼントもあります(食事は各自でご用意下さい)。
- ・田植えや稲刈りなどの農作業に参加したり、棚田の景観や自然、生産者との交流を通じてリフレッシュすることができるほか、収穫された棚田米や地域の野菜・果物を受け取ることができます。



取組主体の紹介

「檜谷棚田保存会」は、檜谷の棚田を保存するために設立されました。しかし、地元だけでは棚田の維持は難しいです。活動趣旨に賛同してくれる「棚田お手伝い隊」も募集しています！

イベントに参加するには

下記HPから募集要項を確認して、申込書を大洲市農林水産部農林水産課まで郵送またはFAXにて。

〒795-8601 愛媛県大洲市大洲690-1

電話 0893-24-1727 (直通)

Fax 0893-24-1350

- ・取組主体等：檜谷棚田保存会
- ・問合せ先（TEL等）：080-1525-8306

・参考URL：
<https://sites.google.com/site/kashidanitanadahozonkai/home/ownersystem>



大自然の中で田舎のオンちゃんおばちゃんと農業体験

体験学習等のイベント内容

- ・都市部で生活する方々に、高知、仁淀川の大自然を満喫しながら農業体験をしていただき、農作業を通じた癒しを提供することを目的としています。
- ・生産者の想いや苦労、田んぼや土の感触などをリアルに体験し、都会ではなかなか学ぶことのできない「気づき」や「考える力」、「生きる力」を育みます。
- ・田植え体験は5月下旬～6月上旬、稲刈り体験は9月下旬～10月上旬、いずれも2時間程度の体験です。
- ・当地では、水稻の体験の他にも、しいたけの駒打ちの体験も行っています。また、農業体験だけでなく、料理、歴史散策、手作り雑貨づくり等、様々な体験メニューがありますので、あなたがやりたいことがきっと見つかります。



取組主体の紹介

いの町は、都市部から近い立地にもかかわらず、清流日本一に輝いた、仁淀川と吉野川が流れ、さらには国定公園でもある石鎚山系もあり、日本を代表する自然が残る町です。いの町観光協会は「いの旅をもっと楽しく！」ということで、『食』『遊』『泊』『癒』『買』の各方面に全力で取り組んでいます。

イベントに参加するには

農業体験は、希望日の3週間前にお申し込み下さい。

- ・取組主体等：いの町観光協会
- ・連絡先（TEL等）：088-893-1211
- ・参考URL：<https://www.inofan.jp/>



棚田オーナー制度による 田植え・収穫祭

・福岡県／うきは市
・開催時期：田植え5月下旬の土曜・日曜日、収穫祭9月中旬の土曜・日曜日

日本の棚田百選、つなぐ棚田遺産の棚田オーナーとなり農作業、農村の祭りを通じて農村を体験！

体験学習等のイベント内容

- ・日本の棚田百選、つなぐ棚田遺産に選ばれている「つづら棚田」で、棚田オーナーの田植祭りを開催しています。
- ・オーナー約70組が数枚の棚田に分かれて、地元農家の指導を受けながら1本1本丁寧に田植を行っています。
- ・また、他にも年間を通じて収穫祭などの様々なイベントを棚田オーナーと行っています。
- ・米の収穫時期には彼岸花と黄金に輝く稲穂のコントラストは息を飲む景色となっています。



田植え体験の様子

取組主体の紹介

つづら棚田保全協議会

棚田を保全するために地区の住民で組織され、田植えや稲刈りなどの農業体験や交流を通し、棚田の持つ環境保全の効果や農村文化を次世代に伝える活動を行っています。

イベントに参加するには

棚田オーナーの募集は毎年1月頃に行っています。入会希望の方・興味のある方は、以下の問い合わせ先まで。

- ・取組主体等：うきはブランド推進課地域振興係
- ・問合せ先（TEL等）：0943-76-9059(TEL)



つづら棚田の景観

棚田での田植え、 稲刈り体験

- ・ 福岡県／朝倉郡東峰村
- ・ 開催時期：田植え6月第2日曜日
稲刈り10月第2日曜日

日本の棚田百選、つなぐ棚田遺産にも選定される魅力的な景観
＋ 農業体験 ＋ 山の幸を使用した美味しいご飯で農村を満喫！！

体験学習等のイベント内容

- ・ 日本の棚田百選、つなぐ棚田遺産に選ばれている竹棚田で、田植え体験とあわせてジャガイモ収穫体験、稲刈りとあわせてサツマイモ収穫体験を実施しています。
- ・ 体験に参加すると、山の幸を使った料理や、棚田で収穫したお米で作ったおにぎりなどを昼食として食べることができます。
- ・ また、6月の「棚田の火祭り」、11月は「秋あかり」など様々な交流イベントを行っています。



収穫体験の様子

取組主体の紹介

竹地区棚田景観保全委員会

棚田を保全するために地区の住民で組織され、田植えや稲刈りなどの農業体験や交流を通し、棚田の持つ環境保全の効果や農村文化を次世代に伝える活動を行っています。

イベントに参加するには

Facebookや東峰村ツーリズム協会のHPで募集をしています。

・ 取組主体等：竹地区棚田景観保全委員会

・ 問合せ先（TEL等）：竹地区棚田保全委員会への連絡先は以下の参考URLに記載されています。

・ 参考URL：竹地区棚田景観保全委員会のFacebookはGoogle検索等で見つけることができます。東峰村ツーリズム協会HPは <https://toho.main.jp/tanadaaki/> です。



11月開催の秋あかりの様子

重要文化的景観、日本の棚田百選の棚田を保全するボランティア活動、交流イベントで農業農村を体験！

体験学習等のイベント内容

- ・蕨野の棚田は高さ8.5mの日本一の高石積などがあり、「重要文化的景観」、「日本の棚田百選」、「つなぐ棚田遺産」にも選定されています。
- ・この蕨野の棚田を活かし、6月に「早苗と棚田」ウォーキングin蕨野や、10月に「ふるさとの灯りコンサート」などの都市住民との交流イベントも開催しています。
- ・また、大学や企業の外部支援を受けた棚田保全のボランティア活動も行っています。



大学生による稲刈りの様子
(2020棚田ボランティア活動 佐賀大学「手間講隊」)

取組主体の紹介

NPO法人蕨野棚田を守ろう会

蕨野の棚田と里山を保全し、後世に引き継いでいくための活動を行うとともに、都市との交流を通じた地域の活性化、及び全国の棚田保全運動の支援に寄与する活動を行っています。

イベントに参加するには

イベントへの参加を希望する方・興味のある方は、以下の問い合わせ先まで。

・取組主体等：唐津市相知市民センター産業・教育課

・問合せ先：0955-53-7125

・参考URL <https://www.pref.saga.lg.jp/kiji00320876/index.html>



交流イベントの様子
(2019ふるさとの灯りコンサート)

田植え、収穫・焼き物体験

・佐賀県／伊万里市
・開催時期：6月～9月

農作業、楽焼体験、棚田米での純米酒で農業農村を満喫！

体験学習等のイベント内容

- ・過疎化などにより荒廃したすみやま棚田を8年がかりで整備し、田植え及び収穫体験による交流者増加と純米酒の生産販売などを実施しています。
- ・参加者は、企業ボランティアと一緒に田植えや、収穫体験を行います。また、当日の昼食のお弁当のほか、特産品のプレゼントがあります。
- ・市や大学等と連携し水力発電で棚田のイルミネーションを行っています。



田植えの様子

取組主体の紹介

すみやま棚田守る会

将来にわたって農業生産活動を維持するため、農村景観の保全に必要な棚田の持つ、多面的機能の発揮と特色ある農業の振興を図るために設立しました。

イベントに参加するには

体験に参加を希望する方・興味のある方は、以下の問い合わせ先までご連絡お願いいたします。

・取組主体等：伊万里グリーン・ツーリズム推進協議会

・問合せ先：0955-20-9031



稲刈りの様子

日本の棚田百選、つなぐ棚田遺産の地区で棚田ウォークラリーや案山子コンテストを楽しみながら農村を満喫！！

体験学習等のイベント内容

・日本の棚田百選に認定されたのを記念に、毎年9月に鬼木棚田まつりを開催しています。令和4年にはつなぐ棚田遺産にも選定されています。

・案山子コンテストをはじめ、枝豆収穫や新米すくい取り、農産物直売など田舎でしか味わえない催し物でまつりを盛り上げています。

・また、お昼にはだご汁を無料でサービスしている他、地元自慢の新鮮な野菜、鬼木みそなどの農産加工品なども販売しています。



鬼木棚田まつりの様子

取組主体の紹介

鬼木棚田協議会

平成11年7月に「日本の棚田百選」に認定されたことをきっかけとして、鬼木郷集落の全住民と耕作者によって「鬼木棚田協議会」を組織しました。約22ha、400枚という長崎県内でも最大規模を誇る棚田を、集落全戸の住民が総出で維持管理と景観管理に努めています。

イベントに参加するには

会場は「波佐見町鬼木郷（主会場／鬼木グラウンド）」で、近くの駐車場からシャトルバスが運行されています。

・取組主体等：鬼木棚田協議会 事務局（波佐見町役場内）

・問合せ先：0956-85-2111

参考URL：<http://hasami-kankou.jp/archives/6893>

鬼木棚田まつりの様子

美しい棚田の風景を保全する活動を通して農業農村を体験！！

体験学習等のイベント内容

- ・ イベントを開催する久木野地区には、100ha近い石垣の棚田があります。
- ・ この棚田に地域外の人から興味を持ってもらうために、自然素材のたいまつを2,000本立てて、美しい棚田の風景を楽しみながら、棚田に対しての関心を深めてもらう棚田のあかりをはじめ、HELP！田助手（たすけて）による荒れた棚田を手入れする合宿、大豆耕作団、石垣積み教室などを行っています。



棚田のあかりの様子

取組主体の紹介

久木野ふるさとセンター愛林館
水俣市久木野の村おこし施設として、JR久木野駅跡地を利用して1994年に建てられました。

「今後2,000年間、この地に人が住み森と棚田を守っていけるむらづくり」を目標として活動を行っています。

イベントに参加するには

愛林館に連絡を行うことで参加することができます。

- ・ 取組主体等：久木野ふるさとセンター愛林館
- ・ 問合せ先：0966-69-0485
- ・ 参考URL：<http://airinkan.org/tanada.html>



石積み教室の様子

閉校となった小学校を拠点にして様々なイベントや体験プログラムで農業農村を体験！！

体験学習等のイベント内容

- ・ 閉校となった旧一勝地第二小学校をリニューアルし、農林業の体験や自然に親しむ拠点としました。
- ・ この拠点では地域活性化を目的に、収穫祭などの都市農村交流イベントの開催、まち歩きコースの作成による地域資源の発掘・情報発信、いちご狩りなどの野外体験活動プログラムの提供、宿泊施設を利用した集団宿泊等の誘致・受け入れ、郷土料理作りによる郷土料理の提供と継承、地域の農産物を使用した村特産品の開発と販売等の各種事業を行っています。



宿泊施設の様子

取組主体の紹介

田舎の体験交流館さんがうら
運営委員会

平成22年3月に135年の歴史を閉じた一勝地第二小学校に新たな風を吹き込み、農林業の体験や自然に親しむ拠点として、体験プログラムなどを提供しています。

イベントに参加するには

田舎の体験交流館さんがうらに連絡を行うことで参加することができます。各体験の料金はHPで確認できます。

- ・ 取組主体等：田舎の体験交流館　さんがうら
- ・ 問合せ先：0966-32-0443
- ・ 参考URL：<https://sangaura.com/>



収穫体験の様子

たしぶのしょうおたうえさい

田染荘御田植祭

・大分県／豊後高田市
・開催時期：6月第2日曜日頃

伝統祭事に参加しながら昔ながらの手植えでの田植えを体験！！

体験学習等のイベント内容

- ・御田植祭が開催される「田染荘」は、中世の荘園の姿が色濃く残っており、平成22年に国の重要文化的景観、平成23年にはユネスコ未来遺産、平成25年には当地区を含む国東半島・宇佐地域が世界農業遺産、令和4年度にはつなぐ棚田遺産に登録されました。
- ・この御田植祭は、水田の1口オーナー（荘園領主）と地域の交流イベントで、田植えの前には田染荘とゆかりの深い宇佐神宮の神職による神事が行われ、中世の衣装を身に着けた人など、参加者が田んぼに入り、手植えでの田植えを体験することができます。



御田植祭の様子

取組主体の紹介

荘園の里推進委員会

平成11年に発足し、田染荘の景観保全や都市住民との交流、農業体験の取組を行っています。活動の内容が認められて地域づくり総務大臣表彰を平成22年に受賞しています。

イベントに参加するには

予約不要で参加することができます。
(衣装を借りる際は要予約・有料)

- ・問合せ先：荘園の里推進委員会
- ・電話番号：0978-26-2168



手植え体験の様子

オーナー制度による田植え、 収穫体験

・宮崎県／日南市
・開催時期：3月～8月、通年等

日本の棚田百選、つなぐ棚田遺産の棚田オーナーとなり農作業、
農村の祭りを通じて農村を体験！！

体験学習等のイベント内容

- ・坂元棚田は、日本の棚田百選、つなぐ棚田遺産に選定されており、約110枚の田んぼの美しい景観を楽しむことができます。
- ・また、都市住民を対象とした棚田オーナー制度では、1オーナーあたり1アールの田んぼで田植えや、稲刈りを地元の人々との交流を楽しみながら体験することができます。
- ・また、3月に「棚田まつり」、12月に収穫祭も開催されて、郷土芸能なども見ることができます。



坂元棚田の風景

取組主体の紹介

坂元棚田保存会

平成18年に日南市で開催された第12回全国棚田サミットを契機に資源保全の意識が高まり、平成20年度より、集落内の各種協議会を統合して「坂元棚田保存会」を設立し、棚田の保全管理体制づくりとより一層の集落活性化に向けた取組を行っています。

イベントに参加するには

坂元棚田保存会に連絡を行い、オーナー（30組程度）になることによって参加することができます。

- ・申込先：坂元棚田保存会 日高さん
- ・問合せ先：0987-25-0355
- ・参考URL：<https://www.kankou-nichinan.jp/tourisms/242/>



田植え体験の様子

坂元棚田の全体的な問合せ先：日南市農政課0987-31-1132

世界農業遺産体験プログラム

■宮崎県／高千穂町、椎葉村、
五ヶ瀬町、日之影町、諸塚村
■開催時期：通年

後世に残すべき農業が残る地。知られざる日本の農村を感じる。

体験学習等のイベント内容

- ・宮崎県高千穂郷・椎葉山地域は平成27年12月に世界農業遺産に認定されています。
 - ・世界農業遺産認定地域の3町2村が認定の背景を楽しくわかりやすい体験プログラムとして作成しており、棚田散策やジビエ料理体験、猟師体験、しいたけ収穫体験、SDGs体験などのプログラムを用意しています。
 - ・日帰りから農村民泊と合わせた1泊2日～長期の行程まで、季節やご希望に合わせ実施します。
- (国内外対応可)



つなぐ棚田遺産に選定された田が一面に並ぶ

取組主体の紹介

一般社団法人ツーリズム高千穂郷

農村民泊の推進と関係人口の増加を図る広域観光組織として、高千穂町、五ヶ瀬町、日之影町、椎葉村、諸塚村の5つの自治体と観光協会が連携し農業・文化体験など地域資源を活用した様々なプログラムを提供しています。

イベントに参加するには

一般社団法人ツーリズム高千穂郷

実施内容や時期についてはご連絡ください。

電話：0982-82-2199

メール：ftv@takachiho-go.jp

URL：<https://takachiho-go.jp>



国の重要無形文化財「夜神楽」を体験

「つなぐ棚田遺産」の棚田オーナーとなり、田植えから収穫までの農作業体験＋交流イベントで農村を満喫！！

体験学習等のイベント内容

- ・八重地区には、一つ一つ石を積み上げて作った240枚からなる棚田が山々の間に美しく広がっており「つなぐ棚田遺産」に選定されています。
- ・オーナー制度による田植えから収穫までの米づくり体験を実施するほか、冬には、地域の団体等と協同でLEDソーラーライトを設置し、石積みの棚田を幻想的なイルミネーションで美しく彩る「八重のきらめき」を開催しています。



八重地区の様子

取組主体の紹介

八重地区棚田保全委員会

平成14年に鹿児島県郡山町八重地区の住民で結成され、都市と農村の交流と棚田の保全を目的として、農業体験イベントを行っています。

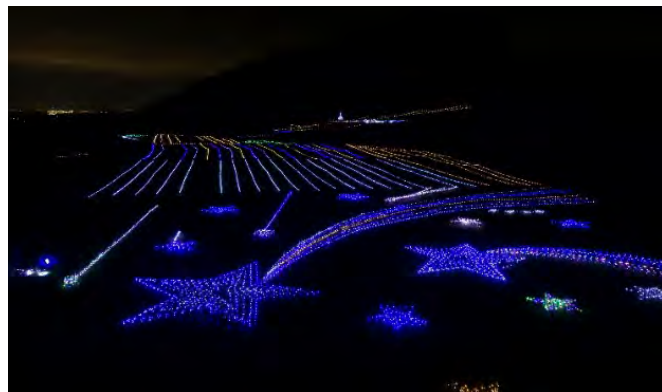


収穫体験の様子

イベントに参加するには

鹿児島市の広報誌「かごしま市民のひろば」や、ホームページ「かごしま市のグリーン・ツーリズム」にオーナー募集を掲載いたします。

- ・お問い合わせ先：鹿児島市世界遺産・ジオ・ツーリズム推進課
- ・問合せ先：099-216-1371
- ・参考URL：<http://kago-greent.jp/agriculture-nature/26>



「八重のきらめき」の様子

メダカが住む豊かな自然を感じながら、農業農村の季節の食材を満喫！

体験学習等のイベント内容

- ・尾木場地区では、生物の生息環境に配慮した水路やため池を整備し、また共同作業によって棚田の保全、ため池等の管理に努めています。
- ・このような尾木場の里山を散策しながら、たけのこ掘りと山菜狩りを楽しむことができます。
- ・収穫したたけのこや、山菜は持ち帰ることができるほか、昼食としておにぎりセットが用意されています。



尾木場棚田の様子

取組主体の紹介

尾木場めだかの里保全委員会

「めだかの里散策コース」として設定し、地域住民が一体となってめだかの泳ぐ棚田の保全などを行い、農村のすばらしい景観と豊かな自然の体験を提供しています。



山菜狩りの様子

イベントに参加するには

定員があるため事前連絡を行うことによって参加することができます。

・取組主体等：日置市東市支所産業建設課 農林水産係

・問合せ先：099-274-2114

・参考URL：

<https://www.city.hioki.kagoshima.jp/nousei01/event/20180408.html>

体験型講習会を通じて地元食材や料理を次世代へと伝える

体験学習等のイベント内容

・食育や地産地消に関する講習会や体験を実施し、ずっと健康で豊かな生活を過ごすための食について幅広い世代に学んでいただき、次世代へ伝えていきます。

・今年度は、7月・10月・11月の食育の日（毎月19日）に、出汁の取り方から農家との食農体験、琉球漆器と地元食材を使用した伝統料理体験など、子どもから年配の方まで楽しめる体験講習会を実施。講習のあとは、地元食材を利用した沖縄料理を味わいました。

・計3回の講習会には延べ66名が参加し、ローカル局のテレビ番組でもその様子が取り上げられました。



親子クッキング体験



取組主体の紹介

取組主体である地産地消・食育の日実行委員会は、若い世代や食育に関心の低い層に対し、「食」についての正しい知識と食習慣の基礎を身につけることや、食を通じた地域のコミュニケーションを増やして活性化に繋げるため、食育講習会や食の体験イベントを実施します。

今後も、市内の学校や地域団体と連携した食育講習会を予定しています。

イベントに参加するには

イベントの開催情報については、以下の連絡先にお問い合わせください。

・取組主体等：地産地消・食育の日実行委員会

（合同会社ぐらんま）

・問合せ先（TEL等）：090-1365-9362（担当：西）

・参考URL：<https://www.itomanstay.com>（糸満の民泊）

琉球漆器を活用した
伝統料理体験



シェア農園での体験イベント

・沖縄県／西原町
・開催時期：不定期

気軽に始められるシェア農園で充実した農業体験を！

体験学習等のイベント内容

・さわりんガーデンビレッジは、農業を気軽に始めてもらい、もっと好きになってもらいたいという想いでスタートしたシェア農園です。農園利用者の交流や農業の知識の習得に向け、収穫体験等各種イベントを実施しています。

・季節野菜の収穫体験や農園野菜を利用した料理講座、農業に関する相談会、栽培講習会等を実施。イベントには、地元農家や農園利用者も講師になってもらうなど、農園全体で取り組んでいます。

・農園レンタルは好評となり、県内各地から多くの方にご利用いただいております。また、地域の観光拠点施設「西原さわふじマルシェ」や教育民泊と連携した体験メニューも開発し、地域への観光誘客に貢献しています。



料理講座



収穫体験

取組主体の紹介

取組主体である西原町観光まちづくり協議会は、西原町観光推進計画に定められた「人と地域の営みが交流を通じて磨かれる 文教のまち 西原」を実現するため、交流人口の増加、地域産業の活性化や人材育成、町民主役の取組を通じた西原町らしさの実現と町民満足度の向上を目指した観光地及びまちづくりを目的とし、農商工と観光が連携した取組等を行っています。

イベントに参加するには

イベント開催情報やシェア農園に関する問い合わせについては、さわりんガーデンビレッジのHP（下記URL参照）をご確認ください。

・取組主体等：西原町観光まちづくり協議会

・問合せ先（TEL等）：098-945-4540

・参考URL：<https://nishihara-trip.jp/sawarin-gardenvillage>



さわりんガーデンビレッジ



農園野菜利用のキムチづくり講座



「体験学習や教育の場としての活用事例集」（令和４年５月）
 この冊子に対するお問い合わせは、下記担当までご連絡下さい

農林水産省農村振興局地域振興課多面的機能班

☎ 03-6744-2081



農林水産省ホームページ（農業・農村の多面的機能）